

第8版 2026年4月

城東地区5区の 産業構造等の概要



はじめに

本冊子は、令和元年（2019年）より毎年、東京都中小企業診断士協会 城東支部 地域支援部が中心となり、中小企業診断士が城東地区5区（足立区、江戸川区、葛飾区、江東区、墨田区）の主に産業構造や施策について調査・分析を行い、作成しているものです。

城東地区の事業者の業種や特徴等の産業構造について、当初は中小企業診断士の活動の参考資料として作成しておりましたが、区役所の皆様や事業者の方々からも「参考になる」とのお声をいただき、令和3年（2021年）より城東支部ホームページで広く公開しております。

本冊子は、城東地区5区ごとに章立てを行い、各区の概要や産業の特徴をグラフ等でわかりやすく整理しております。また、各産業が抱える課題を明らかにするとともに、その解決に向けて各区が取り組んでいる施策や、伝統ある産業への支援、産業展などのイベント、中小企業向け補助事業等についても紹介しております。

城東地区5区は、それぞれに個性ある産業集積と歴史を有し、多くの中小企業が地域経済を支えています。本冊子を通じて、その実像や可能性に触れていただくことで、この地域で活躍したいと志す中小企業診断士が一人でも増え、地域とともに歩む支援活動がさらに広がっていくことを願っております。そして、その積み重ねが城東地区5区の産業振興、ひいては地域活性化につながることを期待しております。

本冊子が、地域の産業振興の一助となるとともに、城東支部の活動にご関心をお持ちいただくきっかけとなりましたら幸いです。

東京都中小企業診断士協会 城東支部
地域支援部 部長 佐々木 静



はじめに	i
前章 城東地区5区の概要	1
第1章 足立区	3
1. 足立区の概要	3
(1) 足立区の歴史	3
(2) 足立区の地理	3
(3) 足立区の名所・見どころ	4
2. 足立区の産業の特徴と状況	4
(1) 足立区の特徴と状況	4
(2) 足立区の産業と課題	5
3. 足立区の特徴的な取り組み	7
(1) 未来を拓く足立ブランドの認定	7
(2) エリアデザイン	7
(3) 大学連携事業	8
(4) ビューティフル・ウィンドウズ運動	8
4. 足立区の施策	8
(1) 足立区の基本計画	8
(2) 足立区の産業支援	8
5. 城東支部とのかかわり	10
インタビュー：足立区に聞く	11
第2章 江戸川区	13
1. 江戸川区の概要	13
(1) 江戸川区の歴史	13
(2) 江戸川区の地理	13
(3) 江戸川区の名所・見どころ	13
(4) その他	14
2. 江戸川区の産業の特徴と状況	15
(1) 江戸川区の特徴と状況	15
(2) 江戸川区の産業と課題	16
3. 江戸川区の特徴的な取り組み	18
(1) えどがわ伝統工芸産学公プロジェクト	18
(2) 葛西海浜公園のラムサール条約登録	18
4. 江戸川区の施策	18
(1) 江戸川区の基本計画	18
(2) 江戸川区の産業支援	19
5. 城東支部とのつながり	20

インタビュー：江戸川区に聞く	21
第3章 葛飾区	23
1. 葛飾区の概要	23
(1) 葛飾区の歴史	23
(2) 葛飾区の地理	23
(3) 葛飾区の名所・見どころ	23
2. 葛飾区の産業の特徴と状況	24
(1) 葛飾区の特徴と状況	24
(2) 葛飾区の産業と課題	24
3. 葛飾区の特徴的な取り組み	26
(1) 葛飾区地域ブランド認定	26
(2) 柴又地区の重要文化的景観選定	26
(3) かつしか電子まっぷ	26
4. 葛飾区の施策	26
(1) 葛飾区の基本計画	26
(2) 葛飾区の産業支援	27
5. 城東支部とのつながり	27
インタビュー：葛飾区に聞く	29
第4章 江東区	31
1. 江東区の概要	31
(1) 江東区の歴史	31
(2) 江東区の地理	31
(3) 江東区の名所・見どころ	31
2. 江東区の産業の特徴と状況	32
(1) 江東区の特徴と状況	32
(2) 江東区の産業と課題	33
3. 江東区の特徴的な取り組み	34
(1) 江東区ものづくり団地（江東ブランド）の認定	34
(2) 江東区民まつり中央まつり	35
4. 江東区の施策	35
(1) 江東区の基本計画	35
(2) 江東区の産業支援	36
5. 城東支部とのつながり	37
インタビュー：江東区に聞く	37
第5章 墨田区	40
1. 墨田区の概要	40

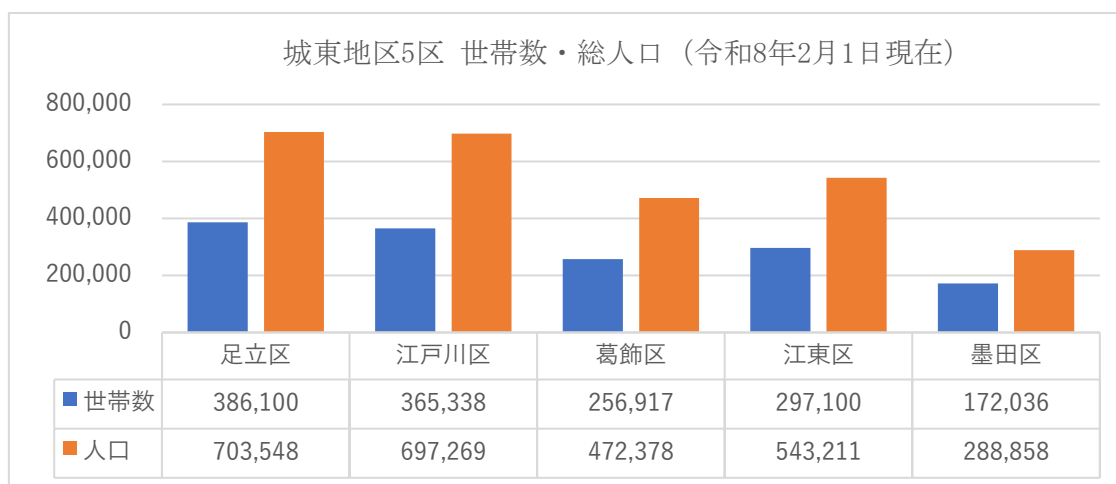
(1) 墨田区の歴史.....	40
(2) 墨田区の地理.....	40
(3) 墨田区の名所・見どころ	40
2. 墨田区の産業の特徴と状況.....	41
(1) 墨田区の特徴と状況.....	41
(2) 墨田区の産業の課題.....	41
3. 墨田区の特徴的な取り組み.....	43
(1) すみだモダン（すみだ地域ブランド戦略）の推進	43
(2) スミファ～すみだファクトリーめぐり	44
(3) 墨田区産業共創施設 SIC（SUMIDA INNOVATION CORE）	44
4. 墨田区の施策.....	44
(1) 墨田区の基本計画	44
(2) 墨田区の産業支援	45
5. 城東支部とのつながり	47
インタビュー：墨田区に聞く.....	48
おわりに	50

前章 城東地区5区の概要

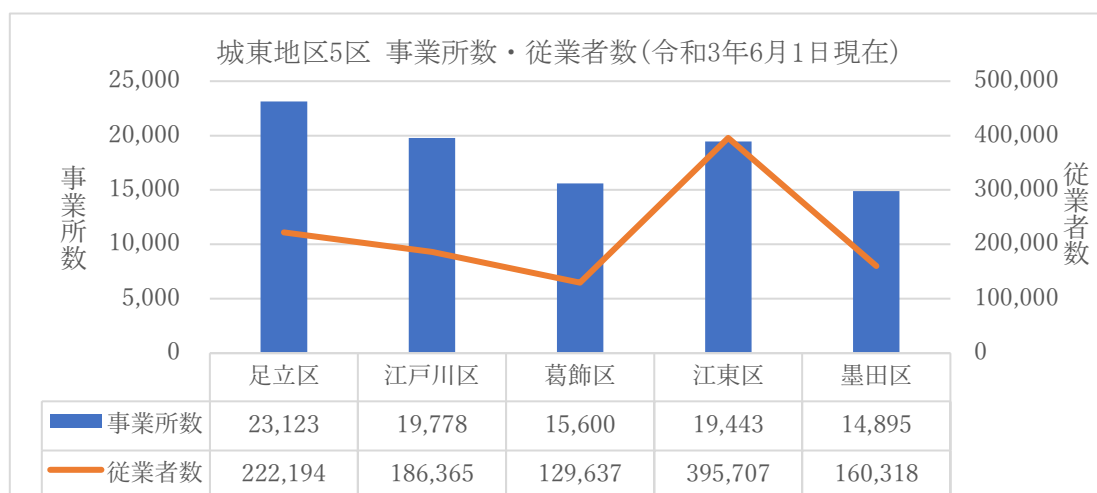
城東地区はかつての江戸城、現在の皇居から東側の地区を指す。東は千葉県、北は埼玉県と接しているこのエリアは、荒川、江戸川、隅田川と複数の一級河川が流れ、近代都市を有しながらも、自然の景観が残る一帯となっている。

東京都中小企業診断士協会 城東支部は、足立区、江戸川区、葛飾区、江東区、墨田区の5つの区を担当する支部である。

前章では、各区の世帯数・総人口および事業所数・従業者数の比較により城東地区の5区の規模感を示す。

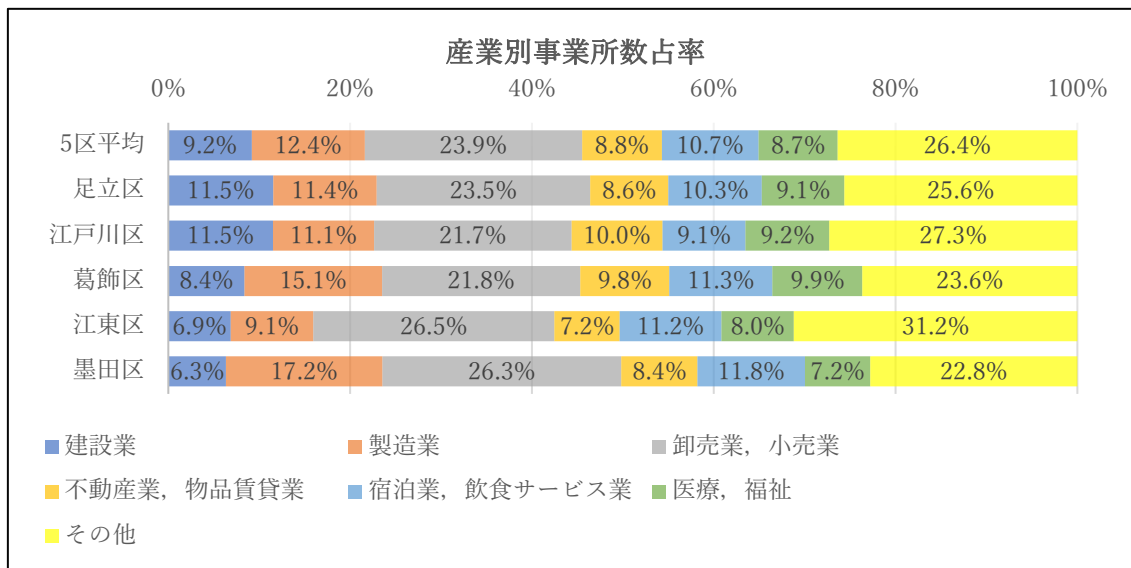


出典：各区公表データより集計



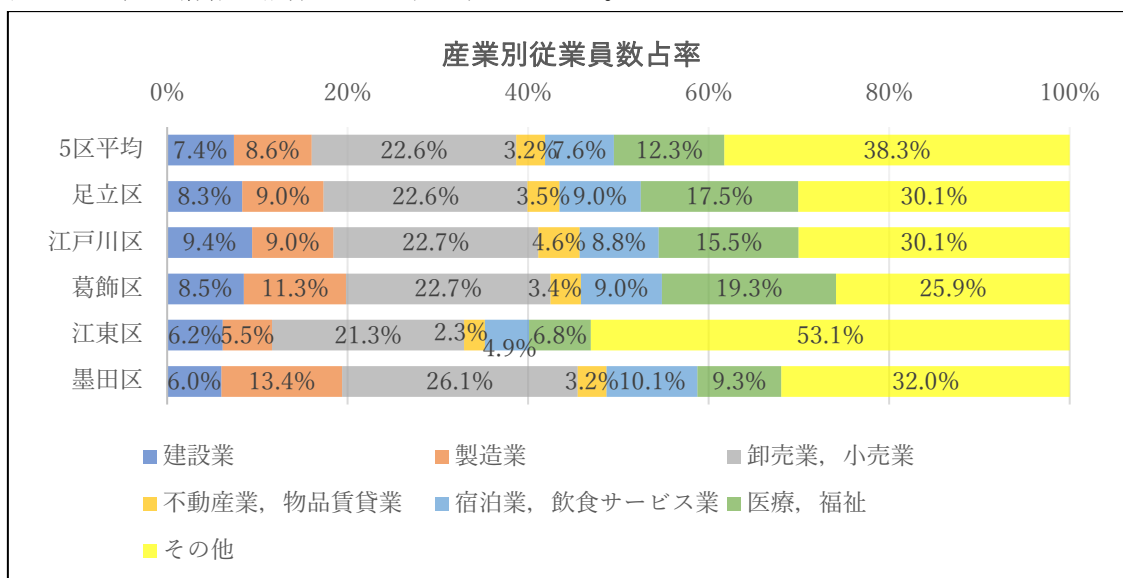
出典：経済センサス活動調査報告より集計

産業別事業所数占率で5区平均を上回っている（2ポイント以上）のは、足立区・江戸川区で建設業、葛飾区で製造業、江東区で卸売業・小売業、墨田区で製造業と卸売業・小売業となっている。



出典：令和3年経済センサス活動調査報告より集計

産業別従業者数占率で5区平均を上回っている（3ポイント以上）のは、足立区・江戸川区・葛飾区で医療・福祉、墨田区で製造業と卸売業・小売業となっている。なお、江東区はその他で情報通信業が17.4%を占めている。



出典：令和3年経済センサス活動調査報告より集計

第1章 足立区

1. 足立区の概要

(1) 足立区の歴史

足立区は、その昔海辺に面した湿地帯の湿原や荒地だったといわれており、「あだち」という名の由来は、足立区の周辺に葦が多く生えていて、「葦立(あしだち)」といわれたのが「足立」になったという説がある。江戸時代の武蔵国足立郡が明治 11 年(1878 年)に南北に分かれ、東京府に属する南足立郡が今の足立区の前身となっている。「足立区」という区名は昭和 7 年(1932 年)からである。

世帯数	386,100		
人口	男性	351,490	
	女性	352,058	
		総数	703,548
令和 8 年 2 月 1 日現在			

總持寺(そうじじ)、通称「西新井大師」は空海(弘法大師)に由来する歴史ある寺院で、「関東三大師」の一つに数えられ、毎年、初詣の参拝客で賑わっている。



西新井大師本堂



境内に咲く梅



千住大橋

ターミナル駅として栄えている北千住駅周辺は、「千住宿」として江戸時代から物流や商業の拠点を担ってきた。文禄 3 年(1594 年)に当時隅田川に架けられた唯一の橋である千住大橋が完成し、東北へと延びる奥州街道が足立区を通り、その後日光街道ともつながった。

(2) 足立区の地理

東京都区部(東京 23 区)の北東部に位置し、隅田川と荒川に挟まれた地区と、面積の大半を占める荒川以北の地区に分かれている。東は葛飾区、西は北区、荒川区、北は埼玉県川口市、草加市、八潮市、南は葛飾区、墨田区、荒川区に接している。

東西 11.10km、南北 8.79km と広がり、総面積は 53.25 km²。区部では大田区、世田谷区に次いで第 3 位の広さである。



出典：足立区 HP

(3) 足立区の名所・見どころ

足立区は、荒川をはじめとした豊かな水辺や、区内に点在する自然環境に恵まれている。北千住など人気のエリアのほか、厄除けで有名な西新井大師、都内屈指の広さを誇る舎人公園、足立区政 50 周年を記念し建設された花畑記念庭園等の見どころがある。

区内外に魅力的な光景を伝えるべく、足立区観光交流協会が「あだち観光ネット」ホームページを通じて情報発信をしている。「足立区が誇る 5 大イベント」として紹介されているのは次の通りである。

時期	名称	場所
3 月	舎人公園 千本桜まつり	都立舎人公園
5 月	足立の花火	荒川河川敷
6 月	しょうぶまつり&世界の食広場	区立しょうぶ沼公園、都立東綾瀬公園
10 月	あだち区民まつり	荒川河川敷（虹の広場）
12 月	光の祭典	元淵江公園

出典：あだち観光ネット (<http://adachikanko.net>)

2. 足立区の産業の特徴と状況

(1) 足立区の特徴と状況



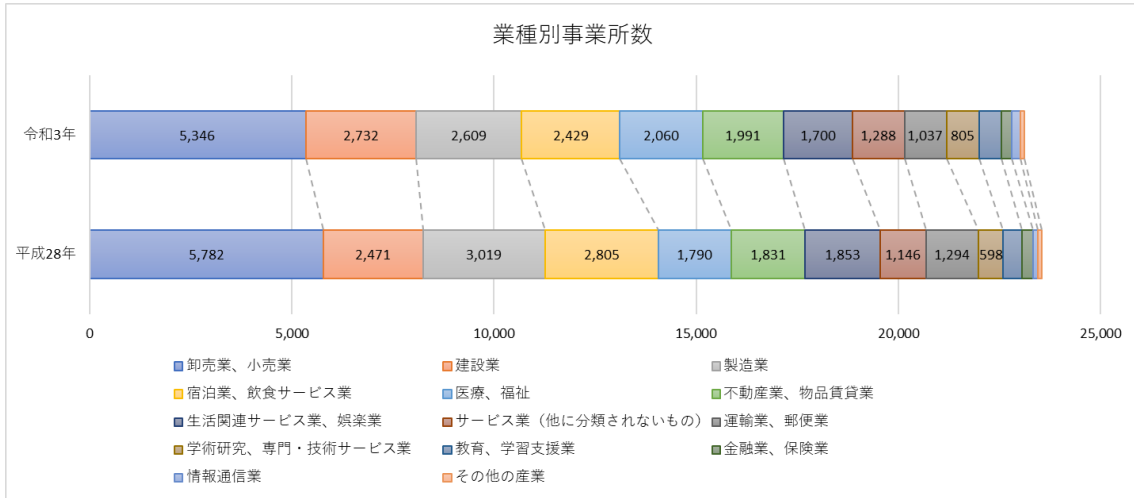
ア. マクロ状況

令和 3 年経済センサス活動調査によると、足立区の民営事業所数は 23,123 で区部 8 位、従業者数は 222,194 人で区部 13 位と、事業所に比べて順位が低い。平成 28 年経済センサス活動調査と比較すると、事業所数は減少、従業者数は増加していることから、1 事業所あたりの従業者数は増加していることがわかる。

経営組織別に足立区の実業所をみると、「個人経営」は 6,895 (29.8%)、「法人」は 16,197 (70.0%) となっている。平成 28 年経済センサス活動調査と比較すると、法人の比率が高くなっている。一方で、東京都全体の事業所数の構成比は、「個人」が 22.2%。「法人」が 77.5%となっていることから、足立区は個人経営の実業所が比較的多いことがわかる。

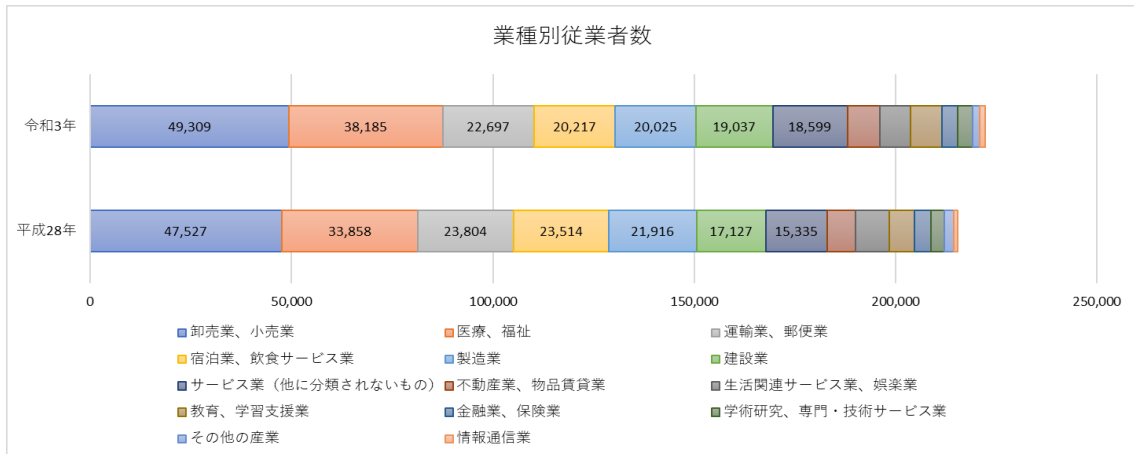
イ. 産業別状況

令和 3 年経済センサス活動調査によると、事業所数の構成比は「卸売業、小売業」が 23.1% と最も高く、次いで「建設業」11.8%、「製造業」11.3%、「宿泊業、飲食サービス業」10.5% と続いており、この 4 産業で構成比の 5 割以上を占める。平成 28 年経済センサス活動調査と比較すると、特に事業所数が増加しているのは「医療、福祉」で 270 増加 (増加率 15.1%)、「建設業」で 261 増加 (同 10.6%)、「学術研究、専門・技術サービス業」で 207 増加 (同 34.6%) となっている。一方で、減少が大きかったのは、「卸売業、小売業」で 436 減少 (同 ▲7.5%)、「製造業」で 410 減少 (同 ▲13.6%)、「宿泊業、飲食サービス業」で 376 減少 (同 ▲13.4%) となっている。



出典：経済センサス活動調査より、第5版筆者作成

従業者数の構成比をみると、「卸売業、小売業」が22.2%と最も高く、次いで「医療、福祉」が17.2%、「運輸業、郵便業」が10.2%、「宿泊業、飲食サービス業」が9.1%、「製造業」が9.0%、となっており、この5業種で7割近くを占める。



出典：経済センサス活動調査より、第5版筆者作成

(2) 足立区の産業と課題

ア. 足立区の工業の特徴

① 足立区の工業の状況

足立区は、金属製品、皮革製品、印刷などを中心産業としてきた。令和3年経済センサス活動調査によると、足立区の製造業は、事業所数は2,609で区部2位、従業者数は20,025人で区部9位と上位にある。しかしながら、都内のほかの代表的な工場集積地区と同様、事業所数は急減傾向にあり、特に従業員10人未満の規模の減少が顕著である。多くの小規模事業者は、原材料価格高騰等の外部環境と同時に、経営者の高齢化と後継者不足等の内部環

境の影響を大きく受け、今後も厳しい状況であることが想定される。

②足立区の工業の課題

厳しい環境の中で経営力の維持・強化を図っていくために、製造業・加工業等が集積する特性を活かした自社にない技術を保有する異業種との協業や販路開拓等の取り組みが求められる。また、先端技術の導入や将来を見据えた持続可能な事業展開等にも取り組むことで、売上の向上や効率化をはかり、収益力の維持・強化が必要である。

イ. 足立区の商業の特徴

①足立区の商業の状況

令和3年経済センサス活動調査によると、卸売・小売業の商店数は4,111、従業者数は40,590人、年間商品販売額は1兆3,978億円となっている。

卸売業は事業所数では「建築材料、鉱物・金属材料等卸売業」が最も多く、従業者数と年間商品販売額は「飲食料品卸売業」が最も多い。

小売業の事業所数と売場面積は「その他の小売業」が最も多く、従業者数と年間商品販売額は「飲食料品小売業」が最も多い。

②足立区の商業の課題

令和3年7月に足立区が実施した「消費・就労に関する意識調査」によると、区民の85.9%がキャッシュレス決済の利用ありと回答しており、キャッシュレス決済が浸透していることがわかる。一方で、令和3年10月に実施された足立区商店街振興組合連合会加盟店舗の決済方法調査では、スマホ決済、その他のキャッシュレス決済ともに50%以上の店舗が「導入していない」と回答しており、今後事業者側のさらなる対応促進が求められる。

ウ. 足立区の農業の特徴

①足立区の農業の状況

東京都産業労働局農林水産部の「東京都農作物生産状況調査」（令和4年産）によると、枝豆の収穫量は区部2位、小松菜は3位である。また、区内では野菜のほかに、夏菊などの切花を中心に花苗なども栽培されている。小松菜の地域ブランドである「あだち菜」とそれを用いた「あだち菜うどん」など農作物のブランディング活動も行われている。

②足立区の農業の課題

農家数、農業就業人口いずれも減少傾向にあり、農業の担い手不足が進んでいる。担い手不足の解決には、認定農業者や新規就農者の育成・支援について、東京都やJA東京スマイル等の関係団体との連携や、農家からの援農希望があった場合に派遣する農業ボランティアの育成が必要である。

3. 足立区の特徴的な取り組み

(1) 未来を拓く足立ブランドの認定

足立区では、平成19年度（2007年）から「足立ブランド」を展開している。区内産業の優れた製品・技術を認定し、その素晴らしさを全国にPRしネットワークを広げていくことで、区内産業のより一層の発展と足立区のイメージアップを図ることを目的としている。認定製品・技術には「足立ブランド認定ロゴマーク」を付与し、販路拡大のためのPR支援などを展開している。令和7年（2025年）4月時点で59社を認定している。

足立ブランド認定企業が集結するチーム「FC ADACHI」は、区内産業主たちの業種を越えた集合体で、地場産業からブランド事業を通じて足立区を盛り上げるチームとして、産学連携や企業間交流を行い、ものづくりの新たなネットワークを広げている。

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/s-shinko/shigoto/shogyo/brand-toha.html>



(2) エリアデザイン

足立区では、魅力的なまちの将来像を描き、民間活力の誘導や区有地等を効果的に活用することで、区のイメージアップを図る独自の手法「エリアデザイン」による、新たなまちづくりに取り組んでいる。現在は、「綾瀬・北綾瀬」「六町」「江北」「花畑」「千住」「西新井・梅島」「竹の塚」の7つのエリアのうち5つのエリアで計画を策定し、まちの価値を高めていくべく、拠点施設等の着実な整備を進めている。



すこやかプラザ あだち



リニューアルした上沼田東公園

<直近の取り組み例>

エリア	取り組み例
綾瀬・北綾瀬	「綾瀬駅東口駅前交通広場」の交通開放
六町	六町駅前安全安心ステーション「ろくまる」を開設
江北	江北保健センターなどが入る「すこやかプラザ あだち」を開設
花畑	文教大学東京あだちキャンパス開設と、周辺の環境整備を実施中
千住	千住大川端地区地区まちづくり計画を策定
西新井・梅島	西新井公園周辺地区まちづくり計画及び西新井公園基本構想を策定
竹の塚	竹ノ塚駅高架下に新たな商業施設がオープン

https://www.city.adachi.tokyo.jp/sesaku/20141106senryaku_keikaku.html

<https://www.gikai->

[adachi.jp/voices/GikaiDoc/attach/Nittei/Nt7054_20250709houkoku02.pdf](https://www.gikai-adachi.jp/voices/GikaiDoc/attach/Nittei/Nt7054_20250709houkoku02.pdf)



(3) 大学連携事業

足立区では、6つの大学がキャンパスを開設しており、この区内六大学を中心に、さまざまな大学との連携を行っている。「夢をかなえよう。with あだちの6大学」と銘打ち、子どもたちが大学に憧れを持つような連携講座やイベントの開催を実施することで、「進学」が将来の選択肢の一つとなるような事業を展開している。

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/citypro/ku/koho/daigakurenke.html>



(4) ビューティフル・ウィンドウズ運動

足立区では、地域や警察と連携して、犯罪のない美しい住みよいまちをめざす「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を展開している。令和6年(2024年)の刑法犯認知件数は4,442件で、平成26年(2014年)の7,561件に比べ大きく減少している。令和6年度(2024年)の「足立区政に関する世論調査」によると、ビューティフル・ウィンドウズ運動の認知状況について、「知っている」は46.7%となっており、令和5年度(2023年)の43.1%からわずかに上昇した。

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/kikikanri/ku/koho/b-windows.html>



4. 足立区の施策

(1) 足立区の基本計画

ア. 足立区基本構想

「協創力でつくる 活力にあふれ 進化し続ける ひと・まち足立」を区が目指す将来像として、平成28年(2016年)10月に足立区基本構想が策定された。

イ. 基本計画(令和7年2月改定)

基本計画は、「足立区基本構想」で示した将来像の実現に向けて、区政全体の目標や基本的な考え方を整理し、具体的な施策を体系的にまとめたものであり、区のすべての取り組みは、基本計画に基づいて実施されている。これまでの基本計画(平成29年度～令和6年度)を踏まえつつ、社会情勢や区民ニーズの変化を反映し、新たな課題や視点を取り入れた計画の見直しが行われてきた。

そして令和7年2月、社会情勢の変化を踏まえ、足立区基本構想に掲げる将来像の実現に向けた取組を総合的かつ計画的に推進するため、令和7年度から区制100周年にあたる令和14年度までの8年間を計画期間とする新たな基本計画を策定した。本計画は、次代を見据えた区の基本方針を示すものとして、今後の区政運営の土台となるものである。

(2) 足立区の産業支援

ア. 相談・マッチング

- IT・IoT相談：生産性と効率をあげるためのIT・IoT活用に関わる無料相談
- トータルマッチング事業：企業を訪問し、中小企業支援制度をニーズに合わせて紹介
- 中小企業らくらくメール相談：Eメールにて経営相談・質問に回答

- 中小企業経営者のための相談窓口：専門的知識と経験を持つ各種相談員が無料対応
- 女性起業・経営相談窓口：専門の女性相談員が起業や経営に関する相談に対応
- オンライン中小企業相談：Web 会議サービスを利用したオンライン相談を実施
- 事業者なんでも相談：事業所を訪問して困りごとや悩みの解決をサポート
- ウェブ活用アドバイザー：事業所を訪問してウェブ活用の無料相談に対応

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/shigoto/chushokigyo/keieikoza/index.html>



イ. 創業支援

- 創業者経営力アップ支援事業：創業経営相談員による課題解決支援、中小企業支援メニューの優先的な利用、2年間の事務所賃貸料補助の支援を実施
- 創業プランコンテスト：優秀な事業計画の受賞者へ最大200万円の補助金を交付
- 創業支援施設：相場より安価な家賃でオフィスを提供、経営相談員による相談対応、セミナー・交流会の開催、有益な起業情報の提供を実施
- 足立区創業資金：融資のあっせん、信用保証料および利子補給の補助
- 創業・起業セミナー：独立・起業に向けての入門・実践セミナーの実施

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/shigoto/chushokigyo/sogyo/index.html>



ウ. 助成金、補助金

- IT・IoT 導入補助金：IT・IoT の導入活用に係る費用を補助
- 新製品・新事業開発補助金：新製品・新技術・新サービスの開発にかかる経費を補助
- ホームページ作成・更新補助金：ホームページの新規作成や全面更新の経費を補助
- 区内中小企業人材採用支援助成金：求人チラシ・動画、人材紹介会社への経費を助成
- 就業規則作成助成金：就業規則作成・変更に必要な社労士等への委託費用を助成
- 小規模事業者等経営改善補助金：機械設備等購入費、店舗改修費等を補助
- 足立区ものづくり企業地域共生推進助成金：操業環境、住民受入環境の整備を助成
- 見本市等助成事業補助金：国内外・オンラインの見本市に出展する費用を助成
- ISO 認証取得助成金：ISO 認証取得に必要な経費を助成
- 知的財産権認証取得助成金：知的財産権の認証登録取得に必要な経費を助成
- 中小企業人材育成・資格取得研修費補助金：研修参加費用を補助
- 技術支援補助金：大学等へ支払った技術支援の経費を補助
- 専門家派遣助成金：公益財団法人東京都中小企業振興公社専門家派遣の経費を助成
- 事業承継促進支援助成金：事業承継に係る専門家活用費用などの経費を助成

- エネルギー価格高騰対策支援金：燃料価格高騰の影響を受ける運輸事業者を支援

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/shigoto/chushokigyose/jose/index.html>



5. 城東支部とのかかわり

城東支部は、地域とのつながりを大切にしながら、足立区における活動の輪を広げている。

具体的には、「あだち NPO フェスティバル」へのボランティア参加や「足立区 AB サロン」への参加を通じて、事業者支援および地域貢献を行っている。さらに、区役所への施策提言や情報提供を行うとともに、足立区産業経済部企業経営支援課や足立成和信用金庫の担当者を招いた講話を実施している。こうした行政・金融機関との連携を図りながら、足立区内事業者への支援を進めている。

足立区に聞く

足立区 産業経済部 企業経営支援課長 岸柳 直人



■はじめに

足立区は、製造業から建設、サービス、小売業まで、幅広い業種が集まる地域です。令和14年の「足立区制100周年」を見据え、区では地域経済の持続的な発展に向けて支援策のアップデートを重ねています。本稿では、令和8年度に向けて支援を拡充する「人材支援」「物価高対策」「創業・事業承継」の動向と、地域コミュニティを支える「商店街支援」についてお伝えします。

■人材支援

人手不足は、依然として区内企業の大きな課題です。令和7年度に2年目を迎えた「区内中小企業人材採用支援助成金」は、申請件数が321件へと増加しました。とくに土木建築や運輸・サービス業からの反響が大きく、求人広告を使った企業の採用成功率も60%を超えるなど、確かな手応えを感じています。令和8年度は現場の声に応え、上限内で「年度内2回」まで申請可能とし、採用活動のタイミングに合わせてより柔軟に使いやすくする予定です。

また、「採用」した人材を社内で育てる「育成」の支援も欠かせません。即戦力の採用が難しい中、入社後に資格を取らせて育てる企業が増えています。「中小企業人材育成・資格取得研修費補助金」では、現場向けの技能講習から経営層向けの研修まで、幅広く対応できるよう、申請回数や上限額を企業のニーズに合わせて柔軟に選べるようにしており、令和7年度は230件超の利用がありました。

そして、令和8年4月から新たに「人材定着サポート助成金」をスタートさせ、職場環境の整備や熱中症対策等を通じた「定着」支援にも注力して参ります。今後は「採用」「育成」「定着」の三本柱で、企業の人材確保をしっかりとバックアップしていきます。

■物価高支援

物価や資材高騰の波は今も続いており、令和7年度の「緊急経営資金」の融資あっせん件数は前年度比で増加傾向にあります。手元資金のニーズが根強いことは確かですが、コロナ禍から続くこの緊急支援については、そろそろ新たなメニューの創設へ舵を切る時期に来ているのではないかと感じています。

そこで力を入れているのが、中長期的な経営体質強化に向けた「小規模事業者等経営改善補助金」です。長引く原材料費等の高止まりに配慮し、令和8年度も同規模でしっかり継続します。区内経済の好循環を生むため、経費の半額以上を区内事業者へ支払う場合の優遇措置（補助率・上限額の引き上げ）も維持します。令和8年度には内容が改善

され、やむを得ず区内で移転する際の設備投資などにも利用できるようになりました。

■創業支援

足立区には前述の通り、特定の産業に特化しすぎていない「何でもできるポテンシャル」があります。実際、大学と連携した施設には最先端の IT 企業が入居するなど、区外からの注目度も高まってきました。

創業支援施設「かがやき」では、起業家が事業を軌道に乗せられるよう、入居期間をこれまでの最大3年から最大5年へと大幅に延長しました。さらに「創業プランコンテスト」でも、オンライン申請の導入や事前の書類作成支援を行うなど、挑戦へのハードルを下げる工夫を進めています。

■事業承継

令和7年度から新設した「事業承継促進支援助成金」は、初年度から目標を上回る9件の申請があり、正直なところ我々も驚くほどの好発進でした。

これはまさに、中小企業診断士である「マッチングクリエイター」の方々が、日々の訪問の中で経営者の潜在的な悩みをうまく引き出し、自分ごととして捉えてもらうきっかけを作ってくれた結果だと捉えています。

令和8年度は、特に申請の多かった「事業承継に伴う製造業の設備投資」への予算を増額し、区内の貴重な技術を次世代へつなぐ支援を継続します。

■商店街支援

商店街は「地域コミュニティ」や「安心・安全なふれあいの場」として不可欠であり、区では大型店やチェーン店とも連携して魅力ある商店街づくりを進めています。

一方で、担い手の高齢化や後継者不足が課題で、令和7年度には2つの商店街が解散となってしまいました。商店街に加盟しない店舗が増えていることも課題であり、店舗に「加盟するメリット」を認識してもらうため、区では地域の需要に応じた独自の補助金メニューを展開しています。

具体的には、50歳以下の若手や後継者が企画するイベントを支援する、区独自の「商店街U50（アンダーフィフティ）事業補助金」に加え、令和8年度からは、子どもの頃から商店街に触れる機会を創出し、次世代のファン育成を狙う「こども向けイベントに活用できる補助メニューも追加しました。今後も、商店街が持つコミュニティ機能を維持・発展させるため、支援を継続していきます。

■中小企業診断士への期待

行政の視点だけでは、現場のリアルな課題になかなか気づけません。中小企業診断士が持つ第三者の視点や現場の生の声は、実情に合った施策を考える上で大変役立ちます。

足立区は現在、新たな地域経済活性化基本計画を策定中です。専門家ならではの客観的なデータやアイデアをぜひ区に届けてください。現場の知見や経験を共有し、区と一体となってより良い中小企業支援を実現していきたいと考えています。

(令和8年2月取材)

第2章 江戸川区

1. 江戸川区の概要

(1) 江戸川区の歴史

昭和7年(1932年)の市郡合併により、それまでの南葛飾郡は廃止され、小松川町、葛西村、篠崎村、松江町、瑞江村、小岩町、鹿本村の7町村が併合されて東京市江戸川区が誕生した。区名は、区を南北に流れる江戸川に由来する。江戸川の名前は「江戸へ通じる川」という意味で名付けられた。

世帯数		365,338
人口	男性	350,164
	女性	347,104
	総数	697,269
令和8年2月1日現在		

(2) 江戸川区の地理

江戸川区は東京都の最東端に位置し、南北に長い形をしている。西に旧中川・荒川、東に江戸川、中央に旧江戸川が通る水辺のエリアである。東西約8km、南北約13kmで、面積は49.09km²あり、23区中4番目の広さである。区内には多くの公園が存在し、7.82km²を誇る公園総面積は23区で1位となっている



出典：江戸川区 HP

(後述(4)ウを参照)。区の西側は海拔ゼロメートルあるいはマイナス地帯である。三方を川と海に囲まれているため、大規模水害が発生すると浸水が長期化することが懸念されている。江戸川区では「江戸川区水害ハザードマップ」を作成し、いざというときの注意喚起を行っている。しかし、「令和4年度江戸川区産業実態調査」によると、「BCPの策定」は事業所全体の3.0%に留まっている。

<https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e007/bosai/kanrenmap/hazardmap/index.html>



(3) 江戸川区の名所・見どころ

江戸川区には「日本の渚100景」にも選ばれた「葛西海浜公園」がある。同公園は、東京都で初めてのラムサール条約湿地(正式名称「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」)に登録された。毎年、多くの渡り鳥が越冬地・休息地等として飛来している。

主な観光名所	主な年中行事など
葛西臨海公園	野鳥観察、お魚観察、カヌー体験、海水浴等(随時)
小岩駅 周辺	小岩阿波おどり(7月第1週、令和8年は会場周辺の再開発で開催未定)
行船公園	江戸川区特産金魚まつり(7月中旬)
船堀タワー	展望塔で眺める初日の出(元日)
江戸川河川敷	江戸川区花火大会(8月上旬)
篠崎公園	江戸川区民まつり(10月中旬)

隣接する「葛西臨海公園」には、国内で2番目(直径111m、高さ117m)に大きな観覧車や、日本有数の水族館である「葛西臨海水族園」がある。「葛西臨海水族園」は営業を続



葛西臨海公園 観覧車



葛西臨海公園 水族園

けながら令和10年(2028年)9月に大規模リニューアルを予定している。

また、江戸川区は、外国人人口が、東京都23区のうち二番目に多く、その中でも都内に住むインド人の約4割が江戸川区に住んでいる。東京都の統計によると、令和8年(2026年)1月時点でインド人は8,248人にのぼる。特に西葛西は日本屈指インド人街「リトルインディア」と呼ばれている。平成31年(2019年)には江戸川区議会議員選挙において、全国で初めてインド出身の議員が生まれた。

このほか、昔ながらの独特な雰囲気と多くの飲食の名店で人気を集める小岩エリアなど、江戸川区は、自然と多様な文化の魅力にあふれている。その魅力を広く伝えるため、江戸川区は平成22年(2010年)に120の景観ポイントを「えどがわ百景」として選定(平成30年4月より133の景観ポイント)。パンフレットや探訪マップの配布、カレンダーや切手などのグッズ販売、写真展等で積極的にPRするとともに、ロゴマーク使用制度により区内事業者の「えどがわ百景」を活用した事業を支援している。

(4) その他

ア. 江戸川区の交通

江戸川区には5つの鉄道路線(北から京成本線、JR総武線、都営地下鉄新宿線、東京メトロ地下鉄東西線、JR京葉線)が東西方向に走っている。南北を結ぶ交通手段はバスとなっており、南北に長い形のため、各鉄道路線間をバスで移動しなければならない地域が数多く存在する。

一方、道路事情に目を向けると、京葉道、首都高湾岸線、首都高中央環状線といった高速道路が3本走っており、千葉、湾岸地域、都心部などへのアクセスは良好である。一般道路では、区の中心部を環状7号線が縦断しているのをはじめ、千葉街道など片側2車線以上の大通りが多数あり、道幅も比較的に広いので、車での移動が容易になっている。また、区内がほぼ坂道のない平坦な地形であるため、自転車での移動も活発であり、平成28年度末時点で35kmであった自転車通行帯(ブルーレーン)は、更に62km整備する計画によ



出典：江戸川区 HP

り、令和8年度末に総計約100kmとなる予定である。

イ. 金魚三大産地

江戸川区は弥富市（愛知県）、大和郡山市（奈良県）と並び、「金魚三大産地」として知られている。しかし、江戸川区の都市化が急速に進んだことから、区内の養殖業者は他県へ移転したり、転廃業したりして徐々に減少し、最盛期に23軒あったが、令和6年（2024年）現在、2軒になっている。養殖業者は減ったものの、全国大会で賞を取るなどの優れた技術は今も息づいている。

毎年7月に行船公園で開催される「江戸川区特産金魚まつり」は多くの来場者でにぎわっている。江戸川区では、金魚をもっと身近に感じてもらうために生まれたキャラクター、江戸っ子金魚「えど金ちゃん」を通じて、区特産の金魚を全国にPRしている。



出典：江戸川区HP

ウ. 公園

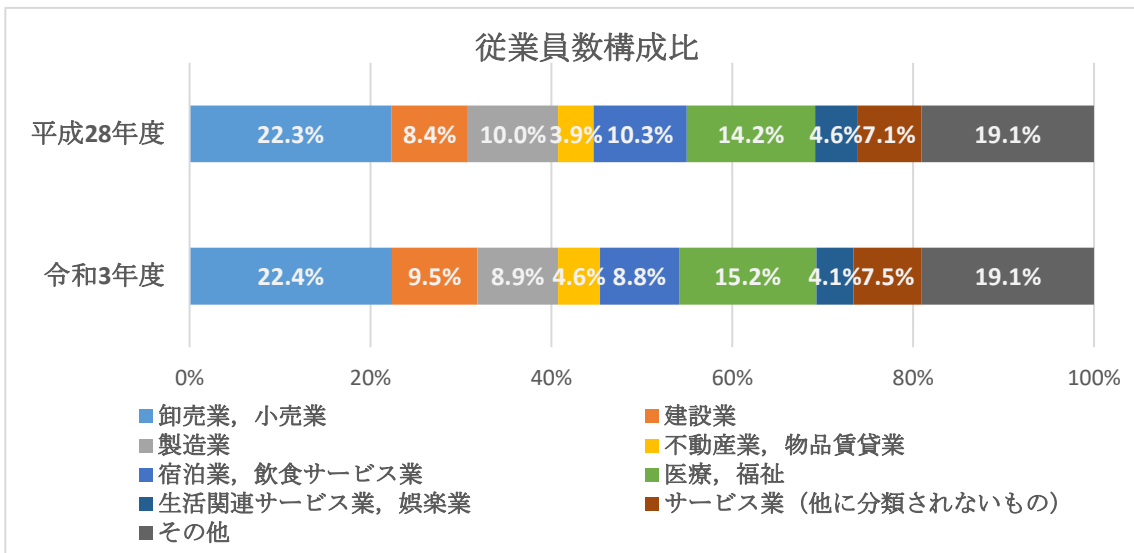
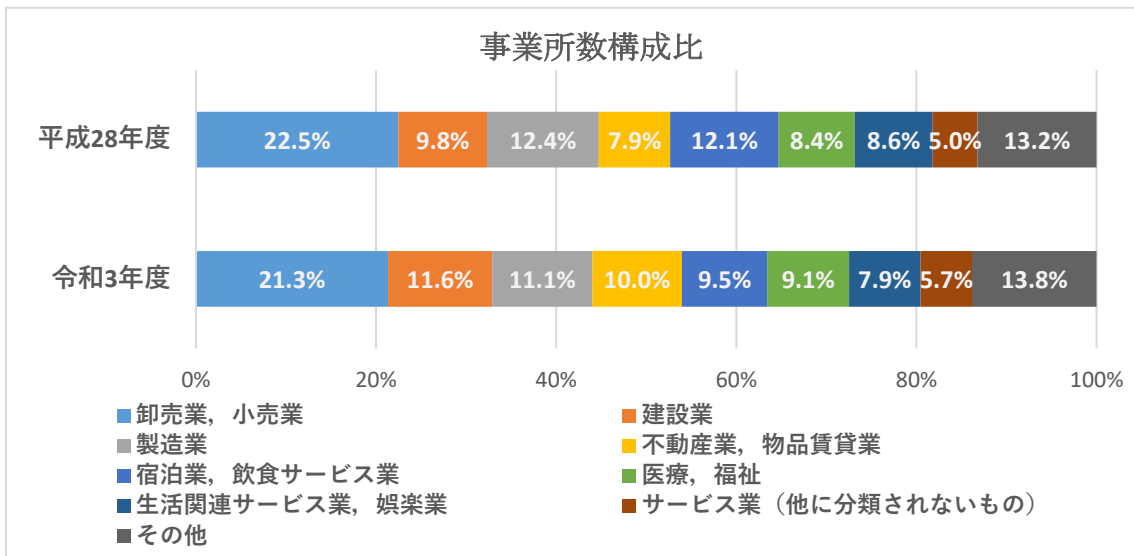
東京都建設局の「東京都都市公園等区市町村別面積・人口割比率表（令和6年）」によると、江戸川区の公園総面積は7,826,326㎡と東京都内（23区および市町村含める）で1番広く、1人当たりの公園面積も皇居外苑のある千代田区を除くと23区で最も広い区となっている。

2. 江戸川区の産業の特徴と状況

(1) 江戸川区の特徴と状況

令和3年経済センサス活動調査によると、総事業所数は23区中12位の19,778で、従業員数は186,365人となっており、23区内で比較すると建設業、製造業の比率が高いという特徴がある。江戸川区全体の事業所数としては減少傾向にある。

農業分野では、花き・野菜等の農業産出額13億5700万円（令和3年）は23区で1位である。代表的な特産物として、江戸川区小松川の地名に由来する小松菜や、鹿骨地区の花き（ポインセチア、シクラメン、朝顔、菊、バラ等）がある。「東京都農作物生産状況調査」によると、江戸川区の小松菜収穫量（令和3年産）は2,720tで、東京都全体の小松菜収穫量（6,808t）の約40%を占めており、東京都内では1番の収穫量を誇る。



出典：令和3年度経済センサス活動調査より、筆者作成

(2) 江戸川区の産業と課題

ア. 江戸川区の工業の特長

①江戸川区内の工業の状況

江戸川区は、東京都城東地域に位置する工業集積地域である。

製造業の事業所数は2,197で、大田区、足立区、墨田区、葛飾区、台東区に次ぎ23区中第6位である。内訳は金属製品製造業、生産用機械器具製造業、繊維工業が多い。製造業全体に占める割合のうち、従業員0-4人の事業所が31.8%、5-9人が28.3%であり、居住地と職場が近い「職住近接」の事業所が数多く存在する。

建設業の事業所数は2,288で、足立区、練馬区に次ぎ23区中第3位である。

②江戸川区の工業の課題

河川沿岸や平井地区、船堀～新小岩間の区域が準工業地域に指定され、金属製品製造業、生産用機械器具製造業、繊維工業、印刷・同関連業等が区内産業の基盤を担ってきた。しかし、国際化や高度情報化、高齢化や事業継承の問題、環境への配慮などで、他地域と同様に製造業は減少傾向であり、鉄道駅近辺を中心とした利便性の高い土地は、工場からマンション・建売住宅などへの宅地化が進んでいる。特に小岩駅では北口の再開発プロジェクト（JR小岩駅北口地区第一種市街地再開発事業）を始め、複数の開発プロジェクトが並行して進められている。

そうした状況下、江戸川区はものづくり産業の発展を支援するため、斡旋融資制度をはじめとするさまざまな助成制度を実施している。

イ．江戸川区の商業の特徴

①江戸川区の商業の状況

令和3年経済センサス活動調査によると、江戸川区における商業（卸売業・小売業）の事業所数は4,219、従業員数は41,784人となっている。

卸売業については、事業所数が1,422で「建築材料、鉱物・金属材料等卸売業」が最も多く、従業員数が11,601人で「その他の卸売業」が最も多い。

小売業については、事業所数が2,797で「その他の小売業」が最も多く、従業員数が30,183人で「飲食料品小売業」が最も多い。

②江戸川区の商業の課題

江戸川区の商業事業所数は減少している。江戸川区を通る鉄道は、新宿や秋葉原、錦糸町など、大型商業施設が多くある都市へのアクセスが良いため、買回り品を中心に買い物客が都心部へ流れやすい傾向がある。また、鉄道駅から徒歩圏外の地域では、その地域の生活を支えるスーパーや商店街が存在している。地域のためにも、それらの事業所の継続支援が求められている。



昭和通り商店街
出典：江戸川画像文庫◎
江戸川区

3. 江戸川区の特徴的な取り組み

(1) えどがわ伝統工芸産学公プロジェクト

「工芸者と美大生が江戸川からこれからの伝統をデザインする」をコンセプトに、江戸川区の伝統工芸者と美術大学（多摩美術大学、女子美術大学、東京造形大学）が連携し、新しい伝統工芸製品を創る事業。平成15年度（2003年）に江戸風鈴、つりしのぶ等の伝統工芸者10人、学生約150人でスタート。平成20年（2008年）にはグッドデザイン賞を受賞した。

2026年は1月にタワーホール船堀で開催され、江戸硝子や染色工芸が受賞した。

えどがわ伝統工芸産学公プロジェクトで生み出された商品は、江戸川区の名産品を販売するネットショップ『えどコレ!』や楽天市場で販売している。



出典：江戸川区 HP

<https://www.city.edogawa.tokyo.jp/shigotosangyo/project/index.html>



(2) 葛西海浜公園のラムサール条約登録

平成30年（2018年）10月、葛西海浜公園が、国際的に重要な湿地を保全する「ラムサール条約湿地」に都内で初めて登録された。葛西海浜公園には、多くの渡り鳥が飛来するとともに、準絶滅危惧種のトビハゼを含む多種多様な生物が生息している。

貴重で自然豊かな環境の保全と活用に関心が多く向けられ、近隣施設への集客増や、区のイメージアップに繋がっている。



出典：江戸川区 HP

4. 江戸川区の施策

(1) 江戸川区の基本計画

江戸川区では、「2100年の江戸川区（共生社会ビジョン）」、「2030年の江戸川区（SDGs ビジョン）」の2つの長期計画と中期計画が策定されている。今から2100年にかけて江戸川区の人口、区のお金、職員数は大きく減りおおよそ2/3程度になると予想されている。ともに生きるまちを目指して、ともに力をあわせて2100年を迎えられるような計画が制定されている。

(2) 江戸川区の産業支援

ア. 産業ときめきフェア in EDOGAWA

製造業を中心とした企業が一堂に会し、展示・実演などを通じて優れた製品・技術力を紹介する展示講演会。ビジネス情報の交流を促進し、企業の活性化を図ることを目的として開催されるものである。第 27 回目となる令和 7 年（2025 年）は 11 月 21 日（金）から 22 日（土）までタワーホール船堀で開催された。

<https://sangyoutokimeki.jp/>



イ. えどがわ起業家ゼミナール

起業に必要な知識やスキル学習のためのセミナーを、基礎編、ステップアップ編と 2 段階で展開している。知識取得から事業プランの作成、発表会までをおこなう。

本講座の受講生で一定の条件を満たすと「産業競争力強化法に基づく特定創業支援等事業の認定による支援」を受けることが可能となり、登記にかかる登録免許税の軽減や、融資保証枠等の拡大が活用できる。

https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e093/shigotosangyo/jigyosha_oen/sangyo_jigyosya/sougyo_shien/kigyoka_seminar/index.html



ウ. えどがわ起業ビジネスプランコンテスト

江戸川区内で新たに起業を考えている人を対象に実施するビジネスプランコンテスト。書類審査とプレゼンテーション審査を行い、入賞者を決定する。入賞者が江戸川区内で実際に起業した場合、起業にかかる経費の一部を区が助成する。

第 22 回となる令和 8 年（2026 年）は、3 月 11 日（水）に応募受付が締め切られ、3 月 23 日（月）に最終審査が行われる予定である。

https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e093/shigotosangyo/jigyosha_oen/sangyo_jigyosya/sougyo_shien/contest/kontesuto.html



エ. 江戸川区中小企業 DX 応援隊

区内の中小企業の経営者が DX 推進に取り組む際に円滑に実施が進められることを目的に、DX 推進に役立つスキルなどの知識・ノウハウや、セミナーの案内、事例を紹介している。DX の悩み・課題については相談窓口から問い合わせが可能となっている。

<https://www.city-edogawa-dx.jp>



オ. えどがわ産業ナビ

区内の会社・店舗などの情報を紹介する、登録および利用が無料のインターネットサイトである。区内事業者の事業内容や各種情報(空き店舗、貸し工場、求人情報)、ニュース(製品情報、キャンペーン、ビジネスマッチング)、セールスポイントなどを発信し、新規顧客や取引先の開拓に利用できる。また区内の補助金、助成金、セミナーといった産業支援情報の検索をするにも便利なサイトである。



出典：えどがわ産業ナビ

<https://edogawanavi.jp/>



カ. 主な事業者向け助成事業（下記は令和8年2月現在のもの）

- 新製品・新技術開発支援事業助成金
- 公設試験研究機関等利用促進助成金
- ものづくり人材育成支援事業助成金
- ものづくり企業人材確保支援事業助成金
- ものづくり企業労働環境向上支援事業助成金
- 販路拡大支援事業助成金
- ISO 認証取得、エコアクション 21 認証取得、プライバシーマーク認定取得助成金
- 知的財産権の出願にかかる助成金
- 事業継続計画（BCP）の策定にかかる助成金
- デジタル技術活用促進助成事業（DX 導入）、デジタル技術活用促進助成事業（IT 導入）
- 商店街空き店舗対策家賃助成事業
- ものづくり企業地域共生推進支援事業
- 就業環境整備助成金
- 創業促進助成事業



https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e093/shigotosangyo/jigyosha_oen/sangyo_jigyosya/jyosui/index.html

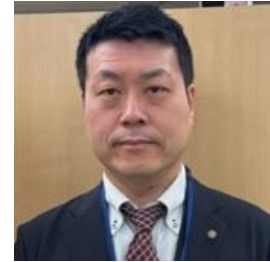
5. 城東支部とのつながり

城東支部としての江戸川区との主な取り組みとしては、産業ときめきフェア in EDOGAWA への出展、江戸川区商店街プロデュース事業などがある。



江戸川区に聞く

江戸川区 産業経済部 経営支援課長 大滝正晴



■DX 支援

江戸川区では、労働生産性が 23 区内で低水準にあるという課題認識を背景に、令和 4 年度から「DX 応援隊」を開始し、中小企業のビジネスを成功させるための DX 導入をサポートしています。専門家による伴走支援では、経営課題のヒアリングから、課題に適したデジタル解決策の提案、システム導入、実装確認まで一貫してサポートします。支援内容の中心は、紙ベース業務のデジタル化・クラウド化、報告書の電子化・共有化、生産管理・人事労務管理・顧客管理などのシステム導入などによる業務の見える化です。製造業では工程・進捗の全体可視化による効率化ニーズが高く、実務上の効率改善の実感が寄せられています。また、今年度からは「デジタルはじめる応援隊」を開始し、ホームページの開設、FAX からメール等への移行、紙の帳票のデータ化など「はじめの一步」のデジタル化を支援する二段階の体系を整えました。セミナーでは、事業所と区内専門職大学の学生で生成 AI を活用した業務改善提案書を作成するなど様々な機関・団体とコラボした取組みを実施しています。推進の鍵は、経営者の理解と社内の DX 推進担当の設置です。高齢の経営者層を含め当初は十分な理解が得られない場合もありますが、導入メリットの丁寧な説明と社内合意形成により、着手後は理解が広がる傾向があります。従業員 9 人未満の小規模な事業所が多く、外部専門家の伴走が導入のきっかけ・推進力となっています。今後は、区内事業所の DX・デジタル化の成果を次の事業所の取組みにつなげていくことが重要となります。事業所のインタビュー記事による DX 導入事例集や区内事業所に登壇いただく DX 応援隊事例報告会などにより、引き続き成功事例の積極的発信をしていきます。

■創業支援

江戸川区は令和 5 年に「活力ある区内産業を推進する条例」を定め、それに基づき「江戸川区産業振興計画」を策定しました。その中では、会社も個人も、このまちを支える大切な「区民」との考えのもと、創業にチャレンジしやすいまちを目指すことを謳っています。

江戸川区は事業所が2万所弱活動していますが、減少傾向を踏まえ、創業希望者のフェーズに合わせて、創業資金融資あつせん、創業助成金、アドバイザー派遣、区主催の起業家ゼミナール、信用金庫主催の創業塾、ビジネスプランコンテストなど、状況に応じた複数の支援メニューを提供しています。昨年度はアントレプレナー交流事業「EDONOWA」に注力し、オンライン開催を含め計8回のセミナー・交流会を実施しました。区内起業家や学生起業家によるトークセッションや主婦層を意識したワークショップなど多様な層をターゲットとしたイベントも実施しました。今年度も新たなテーマを設定し、計7回の開催を予定しています。若年層の参加もあり、参加者の約半数を女性が占めています。区内居住者による職住近接・地域課題解決型の起業が多く、飲食、ウェブ・デジタル、教育、美容分野などが目立つ傾向があります。中小企業相談室では、外国人からの創業相談もあります。これまでの施策を継続しつつ、今後は、区内大学・教育機関との連携、高校生含む学生や女性、外国人起業家へのアプローチなど新たな層の取り込みを視野に入れ、創業環境の一層の充実に取り組んでいきます。

■事業承継支援

事業主の高齢化が進み、後継者問題はまったなしだと考えています。江戸川区が令和4年に行った調査では、事業主の年齢が60代以上の割合が半数を超え、後継者不在、廃業予定、事業承継について考えていないと返答した割合が約6割となっています。この状況を踏まえ、区は「相談を待つ」支援の強化を図りつつ、主体的に事業者へ訪問診断を行うプッシュ型アプローチを開始しました。昨年11月から開始した事業承継支援事業では、アンケート調査と訪問対象事業者へのQRコード案内付きの事前連絡票を送付した上で、アポイントの有無に関わらず実施する「訪問診断」を実施しました。昨年度はKPIを超える訪問診断が実施できました。電話勧誘への不信感に配慮し、区の公式通知と組み合わせて信頼性を担保しつつ、事業承継をはじめとしたヒアリングにつなげています。「訪問診断」と併せて、可能な限り助成金やDX・デジタル化の支援ニーズ、人手不足や将来不安などを伺い、支援先をご案内しています。区では事業承継対策の着手に向けた「気づき」を促し、決断を後押しするためのアプローチに注力し、掘り起した支援ニーズを東京都等関係機関に取次いでいます。取次ぎ後の初回面談では委託事業者や区職員も同席しています。事業承継支援事業の名称を「ミライ応援隊」とし、地域産業団体や関係機関と連携して、勉強会や個別相談会の実施の可能性を探るなどの意識啓発も行い、相談の受け皿を拡充していく考えです。また、関係機関との情報連絡会議の開催や事業承継診断等を実施した事業者へのフォローアップも予定しています。中小企業診断士の皆様には、専門家派遣をはじめ、支援の過程で発生する経営課題も含めた広範な伴走支援をお願いしています。

(令和8年2月取材)

第3章 葛飾区

1. 葛飾区の概要

(1) 葛飾区の歴史

昭和7年（1932年）の合併によってそれまでの南葛飾郡は廃止され、金町、水元、本田、奥戸、南綾瀬、亀青、新宿の7カ町村を併合し東京市葛飾区が誕生した。「かつしか」の「かつ」は丘陵や崖など、「しか」は低地の意味をもっており、地域的な景観から名付けられたと考えられている。

世帯数	256,917	
人口	男性	235,212
	女性	237,166
	総数	472,378
令和8年2月1日現在		

(2) 葛飾区の地理

葛飾区は、東京都の北東部、東経139度50分～55分・北緯35度41分～48分に位置し、周囲を河川に囲まれている。西に荒川、東に江戸川、中央に中川が通る水辺のエリアである。東西約5km、南北約8kmで、面積は34.80km²あり、23区中7番目の広さである。



出典：葛飾区史 HP より

(3) 葛飾区の名所・見どころ

日本映画史に残る名作「男はつらいよ」の舞台として知られる下町情緒あふれる柴又（柴又帝釈天）を始め、季節の花木が楽しめる公園（都立水元公園）、庭園（堀切菖蒲園）が点在する。「こち亀」の亀有や「キャプテン翼」の四つ木など漫画・アニメのゆかりの地としても有名であり、街のいたる所に銅像が設置され、銅像を探しながらの観光も人気である。

月分	主な年中行事など
3月	かつしかふれあい RUN フェスタ
4月	柴又さくらまつり
5月	葛飾菖蒲まつり
7月	葛飾納涼花火大会
8月	新・寅さんまつり
10月	寅さんサミット
11月	かつしかフードフェスタ



亀有駅前のこち亀キャラクター



キャプテン翼の名シーンを再現して撮影可能



柴又駅前の寅さんとさくら像

2. 葛飾区の産業の特徴と状況

(1) 葛飾区の特徴と状況

総事業所数は、15,883 で 23 区中 17 位であるが、製造業の事業所数は 2,329 で、大田区、足立区、墨田区に次ぎ 23 区中第 4 位（令和 3 年経済センサス活動調査）である。ただし大工場は少なく、中小零細工場が多い特徴がある。全体の事業所数は減少傾向にあり、製造業の事業所数も減少傾向にある。

また、葛飾区では、江戸切子など、区内で受け継がれている工芸品を葛飾区伝統工芸品として 46 品目を指定するとともに、その製造に従事する技術者のうち、高度の伝統的な技術・技法を保持する方を、葛飾区伝統工芸士として認定している。さらに伝統産業販路拡大支援事業による製品の販路拡大（葛飾区伝統産業館、ネット販売等）など、その振興に力を入れている。

(2) 葛飾区の産業と課題

ア. 葛飾区の工業の特徴

①葛飾区の工業の状況

葛飾区は、東京都東地域の一画に位置する東京都における代表的な工業集積地域である。玩具、工業用ゴム、シャープペン・ボールペン、ボルト・ナット、装身具などは、全国的においても葛飾区が主要な生産地となっている。しかし、その大半が従業者 6 人以下の小規模工場で、1 工場当たりの出荷額も 23 区中下位に位置している。

葛飾区の工場の大きな特徴は、経営者の約 7 割、従業者の約半数が区内に居住している「職住近接型」という点が挙げられる。

（葛飾区ホームページ：葛飾区製造業の概況・葛飾区工業の歴史より）

②葛飾区の工業の課題

工業統計（従業者 4 人以上の製造業の事業所を対象にした統計）によれば、事業所数、従業者数は年々減少している。この減少理由は、都市部製造業の減少理由と同様に、東アジアへの海外シフト、マンション等住居建設に伴う騒音その他操業環境悪化、後継者難による廃業などが挙げられる。

年	事業所数 (従業者 4 人以上)	事業所数 推移 (%) 平成 24 年 100	従業者数 (人)	従業者数 推移 (%) 平成 24 年 100	製造品出 荷額 (億円)	製造品出荷 額推移 (%) 平成 24 年 100
平成 24 年	1,058	100.0	11,507	100.0	1,815	100.0
平成 28 年	884	83.5	9,452	82.1	1,726	95.0
令和 3 年	543	51.3	7,406	64.3	1,570	86.5

出典：経済センサス活動調査より、筆者作成

イ. 葛飾区の商業の特徴

①葛飾区の商業の状況

葛飾区内における事業所の商業の分布を地区別に見ると、亀有、青戸、立石の順に多い。3 エリア合計で、事業所数の 25.9%を占める。商業集積地区別に見ると、亀有地区に 13.9%の事業所が集積している（第 68 回葛飾区統計書）。特に平成 18 年（2006 年）3 月にオープンした都内有数規模のショッピングセンターアリオ亀有（亀有 3 丁目）内には約 130 の専門店がある。

②葛飾区の商業の課題

令和 3 年の商業の年間商品販売額は 6,899 億円。平成 24 年（2012 年）の 6,308 億円に比べると 109.3%の水準に上昇しており、従業者数も増加傾向にある。一方で、事業所数は減少しており、アリオ亀有に代表される大規模商業施設への集約化の傾向が見られる。

年	事業所数	事業所数 推移 (%) 平成 24 年 100	従業者数 (人)	従業者数 推移 (%) 平成 24 年 100	年間商品販 売額 (億円)	年間商品販 売額推移 (%) 平成 24 年 100
平成 24 年	3,192	100.0	21,066	100.0	6,308	100.0
平成 28 年	3,075	96.3	22,749	107.9	7,331	116.2
令和 3 年	2,535	79.4	23,661	112.3	6,899	109.3

出典：経済センサス活動調査より、筆者作成

ウ. 葛飾区の農業の特徴

①葛飾区の農業の状況

葛飾区は、23 区の中で農業が存続している数少ない地区であり、農業者世帯数は 152 世帯、約 33 ヘクタールの農地を有している。「とれたて・イキイキ葛飾元気野菜」のブランドとして、主に小松菜・枝豆・ほうれん草・キャベツ・ねぎなどが栽培されている。JA 東京スマイル葛飾元気野菜直売所（柴又）始め、区内の葛飾元気野菜「取扱店」「使用店」で購入が可能である。（葛飾区ホームページ：葛飾の農業より）

②葛飾区の農業の課題

農業世帯数・農地面積いずれも減少傾向であり、認定農業者の支援や農業応援サポーターの養成による担い手の育成、販路の拡大や高付加価値化などが課題となっている。

3. 葛飾区の特徴的な取り組み

(1) 葛飾区地域ブランド認定

区内の製造業者が高い技術を駆使して製造した製品・部品等を、地域ブランド「葛飾町工場物語」として平成19年（2007年）から認定・PRを行っている。

<https://katsushika-brand.jp/>



KATSUSHIKA



町工場物語®

出典：葛飾町工場物語 HP より

(2) 柴又地区の重要文化的景観選定

平成30年（2018年）2月に国の重要文化的景観として、柴又地区が選定された。増加する外国人を始め、観光客へ下町柴又の魅力をアップするニュースとして、注目されている。「寅さんサミット」始め、多くの柴又地区ならではのイベントを開催し、近隣商店への集客増へ繋げている。



柴又帝釈天門前参道商店街

(3) かつしか電子まっぷ

令和3年（2021年）9月にリニューアルされた「かつしか電子まっぷ」は、葛飾区の施設、防災、都市計画等の各種地図情報を整理・統合したサービスである。葛飾区の情報について、目的を絞り地図上に落とし込んで検索・閲覧可能である。

<https://www.sonicweb-asp.jp/katsushika>



4. 葛飾区の施策

(1) 葛飾区の基本計画

・葛飾区基本計画（令和3年～令和12年）

葛飾区では令和7年（2025年）以降、人口減少が継続することが見込まれている。区では「葛飾区基本計画」を策定し、「夢と誇りあるふるさと葛飾の実現」「区民との協働による、いつまでも幸せに暮らせるまちづくり」を基本方針として、14の葛飾・夢と誇りのプロジェクト、SDGsが目指す経済・社会・環境の全ての面における発展に向け、成長と成熟が調和した持続可能なまちづくりを進めている。

https://www.city.katsushika.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/001/026/967/honpenzentai.pdf



(2) 葛飾区の産業支援

ア. 主要なイベント、認定事業等

葛飾区産業フェア 10月・町工場見本市 1月・葛飾町工場物語（応募4～6月）などがある。また、令和7年（2025年）3月には亀有駅近くに「こち亀」をテーマにした「こち亀記念館」がオープンし来場者9万人（令和8年2月4日現在）を突破、亀有銀座商店街振興組合と連携する中で地域文化と経済を盛り上げている。



こち亀記念館

イ. 主な補助金事業

葛飾区内の中小企業向けの補助金制度として以下のような事業がある。製造業を重点にした施策が多い。

- 製品性能試験費用補助事業
- ホームページ作成費補助
- 見本市出展費補助事業
- 知的所有権取得費補助事業
- 新製品・新技術開発補助事業
- 動力プレス機械自主検査補助金
- 産業人材育成支援補助事業
- ものづくり企業地域共生事業費助成

<https://www.city.katsushika.lg.jp/business/1000011/1034399/index.html>



ウ. 東京理科大学との産学公連携推進事業

東京理科大学が、平成25年（2013年）4月に葛飾区金町に「葛飾キャンパス」を開設し、葛飾区は、東京理科大学と葛飾区内事業者の連携推進に向けての事業を開始している。

具体的には、区内事業者と大学研究室の相互理解や交流促進、共同開発や技術協力などを目的として、共同研究事例の創出や、共同研究事例テーマ創出セミナー「テクノロジーカフェ」の開催など、さまざまな産学公連携推進事業を実施している。

5. 城東支部とのつながり

診断士として重要なことは、葛飾区の地域を理解すること、事業者の気持ちを理解すること、葛飾区を良くしていく気持ち（葛飾愛が大事である）を持つことの3つであり、城東支部は区や他の支援機関と連携しながら区内事業者への支援を行っている。

城東支部としての、葛飾区との主な取り組みとしては、葛飾区立中央図書館・立石図書館ビジネス相談会並びにビジネスセミナー、葛飾区創業塾並びにかつしか経営塾の講師、かつしか創業者大交流会の運営サポートなどがある。

また、葛飾区は河川が多く水害の危険性や震災リスクが高いため、BCP 対策支援としてBCP ツールを作成し区内事業者への啓蒙を行っている。



葛飾区創業塾



かつしか創業者大交流会

葛飾区に聞く

葛飾区 産業観光部 産業経済課長 橋本 幸夫



■ 「創業支援」

創業を目指す方や創業間もない方に対し、創業前から創業後の経営が安定するまで、区と関係機関・団体が連携して支援を行っています。中小企業診断士や弁護士、税理士等による専門家相談、低利の融資あっせん、創業者交流会、メールマガジンによる情報提供など様々ですが、中でも人気が高いのは、「創業塾」です。「創業塾」は中小企業診断士の他、外部の専門家や関係機関の協力のもと年10回実施しています。創業に役立つ知識を習得できる5~6日間の講座で、無料で参加することができます。創業塾を卒業することで「登記にかかる登録免許税の軽減」や「本人負担利率0%・信用保証料0円の創業支援融資の申請資格が得られる」等のメリットがあります。

また、令和6年度から開始した、区内創業者や創業に興味のある方等を対象とした「創業者大交流会」も、申込みが100人以上となる人気の事業です。創業塾卒業生による講演や複数の創業者による3分間プレゼンを行った後にフリーの名刺交換会をし、創業者同士のコミュニティの場として大いに盛り上がりました。

令和7年度からは創業に興味がある方向けに、「創業入門セミナー」を年4回開催し、区内創業者の機運醸成を図っています。

更に、創業塾卒業生や創業3年以上の経営者、後継者を対象として、持続的に成長を図っていただくために「かつしかみらい経営デザイン塾」を開催し、経営者としてのステップアップを支援しています。

また、創業期のスムーズな事業立ち上げを後押しするため、デジタル化支援にも力を入れています。デジタル化に関するお悩みに専門家が応える「IT相談」、生産性向上や業務効率化のためのデジタル技術の導入にかかる経費の一部を補助する「デジタル化補助金」、販路拡大を目的にホームページを作成・改修する経費の一部を補助する「ホームページ作成費補助金」、デジタル技術の導入から利用定着までをサポートする「伴走支援」など、創業時のデジタル技術の導入と活用を多面的に支援しています。

■商店街支援

区には約 80 の商店街があり、商工振興課と観光課が、イベント支援、活性化事業、販売促進など多面的に商業・観光事業の活性化を図っています。

区にゆかりのあるアニメや映画のキャラクターを活用していることが特徴で、「キャプテン翼 商店街でキックオフ！」や「こち亀デジタル de スタンプラリー」などの地域と連携したイベントの実施、柴又の「寅さん記念館」や亀有の「こち亀記念館」の運営を行っています。「こち亀記念館」は、令和 7 年 3 月にオープンから約 1 年の間に、来館者数が 9 万人を突破しました。

商店街が企業と連携して行う地域活性化事業(イベント事業)としては、タカラトミー等と連携した「まちあそび人生ゲーム IN 葛飾」が、約 6,000 人に参加をいただく毎年恒例のイベントに成長し、地域の活性化に貢献しています。

また、葛飾区内の在住・在勤者を対象に、健康活動促進アプリ「モンチャレ」を提供しています。これは、ウォーキングや食事記録の入力、イベント参加などに応じてポイントを貯め、それを地域の加盟店で使える「かつしか PAY」(デジタル商品券)に交換できるというもので、アプリ利用者の健康増進と地域商業の活性化の両面に寄与しています。

■物価高騰対策

物価高騰対策として、個人事業主に 3 万円、法人に 15 万円を支給する「物価高騰緊急対策支援金」(申請締切令和 8 年 3 月 31 日)を実施しています。この支援金は今年度で 4 回目の取組になり、昨年度は個人・法人合わせて 14,000 件以上の申請をいただきました。

今回は、申請者にアンケートの協力を求め、経営上の課題等の事業者の声を収集するとともに、区の「事業者向けメールマガジン」への登録を促すことにしております。多くの事業者と接点を持つこの機会を活用して事業者の実情や意向等を把握し、事業者ニーズに合致した今後の施策展開に役立てていきます。

創業からの一貫した支援、商店街での地域活性化、物価高対策の緊急対策等の各施策が繋がることで、区内事業者の本質的な課題である経営改善に貢献していきたく思います。

(令和 8 年 1 月取材)

第4章 江東区

1. 江東区の概要

(1) 江東区の歴史

江東区は江戸初期から埋立てを行い、木材・倉庫業、米・油問屋の町として栄えた深川地区（旧・東京市深川区）と、江戸近郊の農地として野菜を江戸市民に供給してきた城東地区（旧・東京市城東区）から成り立っている。明治時代になると、広い土地と水運を利用して、東京の工業地帯となった。「江東」の区名は、昭和22年（1947年）に「隅田川の東に位置する」という地理的な意味から、辰巳区、東区、永代区などの候補の中から選ばれた。

世帯数		297,100
人口	男性	266,289
	女性	276,922
	総数	543,211
令和8年2月1日現在		

(2) 江東区の地理

東京都の東部、隅田川と荒川に挟まれた位置にあり、東京湾に面している。元々低地であったが、かつて南関東ガス田の開発に伴う地下水の汲み上げにより地盤沈下したことで、区の大部分がゼロメートル地帯、または海面より低い海拔マイナス地帯となっている。面積は42.99 km²（「全国都道府県市区町村別面積調」（令和7年10月1日時点））あり、23区中6番目の広さである。



出典：国土地理院 HP より

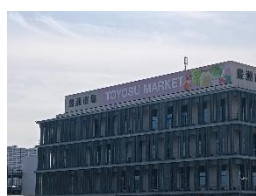
(3) 江東区の名所・見どころ

観光スポットとしては、非埋め立てエリアに多く所在する歴史的な寺社や臨海エリアの大規模な複合商業施設などがあげられる。

平成30年に開場した豊洲市場に隣接する豊洲 千客万来が令和6年に開場しさらなる賑わいをみせている。東京2020オリンピック・パラリンピック会場では、江東区の湾岸エリアの10施設が利用された。



江東区民まつり
中央まつり



豊洲市場

主な観光名所	主な年中行事
深川不動尊	初不動(1月28日)
富岡八幡宮	例祭(8月)
亀戸天神社	藤まつり(4月)
猿江恩賜公園	チューリップフェスタ(4月)
東京ビックサイト	企業向け展示など(随時)
豊洲市場	予約制見学など(随時)
豊洲 千客万来	温泉や場外市場など(随時)
木場公園	江東区民まつり中央まつり(10月)

2. 江東区の産業の特徴と状況

(1) 江東区の特徴と状況

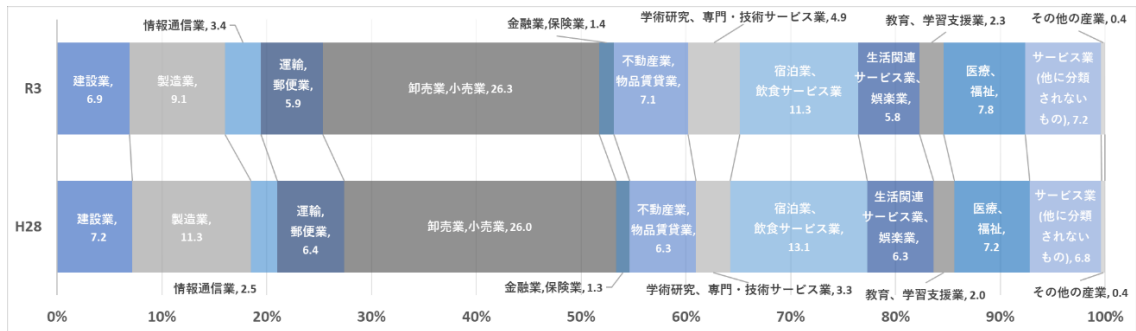
江東区は、繊維（ニット）やガラス（江戸切子を含む）、木材や印刷といった産業が集積しているが、最近では情報関連業の集積が目立っている。また、臨海副都心地区の開発が進んでいることもあり、新しい文化・情報の発信、京浜・京葉の両臨海地帯を結ぶ陸路の物流拠点、国際港としての海運物流の拠点になっている。

令和3年経済活動センサスより、事業所数は19,443で23区中13番目、従業者数は39万5,707人で7番目となっている。平成28年経済活動センサスでは、事業所数が18,024、従業者数が356,931人となっていたため、事業所数の増加に伴い、従業者数も増加していることがわかる。

事業所数について、令和3年（2021年）では、卸売業・小売業（26.3%）が最も多く、宿泊業・飲食サービス業（11.3%）、建設業（9.1%）と続いている。平成28年と比較して特に増加している事業所は、学術研究、専門・技術サービス業である。令和3年には、601事業所⇒943事業所（増加率56.9%）となっており、構成比も3.3%⇒4.9%となっている。なお、特に減少している事業所は製造業である。製造業は、2,028事業所⇒1,707事業所（同▲15.8%）となっており、構成比も11.3%⇒9.1%と低下している。

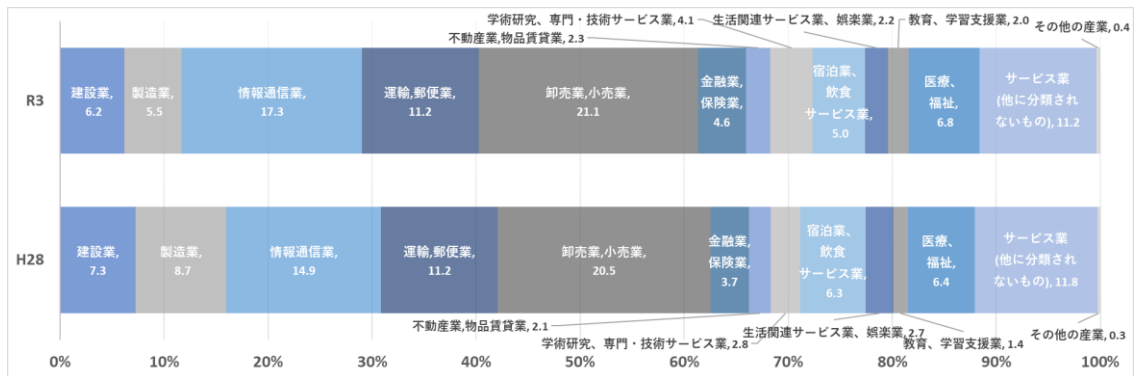
従業者数は、事業所数と同様に卸売業・小売業（21.1%）が最も多く、次いで情報通信業（17.3%）、運輸・郵便業（11.2%）となっている。特に増加しているのは情報通信業で、53,203人⇒68,522人（増加率28.8%）となっており、構成比も14.9%⇒17.3%と増加している。特に減少しているのは、事業所数と同様に製造業で、31,047人⇒21,810人（同▲29.8%）となっており、構成比も8.7%⇒5.5%と減少している。

業種別事業所数構成比



出典：経済センサス活動調査より、筆者作成

業種別従業者数構成比



出典：経済センサス活動調査より、筆者作成

(2) 江東区の産業と課題

ア. 江東区の工業

①特徴

江東区の工業は、明治時代以降、広大な土地と水運が充実していたことを背景に、繊維、木材、ガラス、印刷、製本、金属加工といった産業が発達し、東京の工業地域の一角を担っている。さらに江東区は、京浜・京葉の両臨海地帯を結ぶ陸路の物流拠点として、また、青海コンテナふ頭、フェリーふ頭(有明)、若洲建材ふ頭などの東京港は国際港であり、海運物流の拠点としての位置付けも高い。

②課題

工業以外も含む江東区産業全般の課題として区内事業所のうち小規模事業所や製造業・卸売業等は、特に新型コロナウイルス感染拡大の影響等により売上高や景況感に対する状況が悪化している。そのため、特定業種や小規模事業所における特有課題解決につながるよう支援の必要性について検討が求められる。逆に情報通信業や専門・技術サービス業等は比

較的景況が良く、売上高が拡大している事業所が多く見られ、業種間で大きな差が見られる。こうした業種間の差を踏まえ、区産業全体の振興を図る連携事業等の検討をしていくことが必要となっている。(令和3年3月江東区産業実態調査における現状と課題 P4)

イ. 江東区の商業

①特徴

人口の顕著な増加等により、商業の環境としては好条件である。大型商業施設の新規参入やコンビニエンスストアの店舗数が増加しているが、大型商業施設は臨海部や中南部に集中し、偏りが生じている。また江東区の商業の突出的な特徴として、サービス業の代表格である情報関連業の伸びが著しい。平成21年(2009年)には451事業所、令和3年(2021年)ではさらに増加し668事業所となっている。(令和3年経済センサス活動調査より)

②課題

区内商業は主になじみの店等の理由で、比較的高齢層の区民によって支えられている側面が大きい。ただ地区により年齢層などに偏りがあるため、地区や業種による顧客タイプに合わせた商店やサービスづくり等、ニーズを捉えた商業の活性化施策が重要となっている。また、なじみの店であることを強みと捉える事業所が多い一方、区民は品揃えが豊富であることを求めており、認識の違いがみられる。商店主の売上向上セミナーの実施、相談窓口の設置によるアドバイス等による魅力的な商業地域づくりに向けた支援が重要である。特に飲食料品については、区内の中小商店を利用する区民も一定数いるが、年代で比較すると30歳代では少なく、インターネット通販や区内のスーパーやショッピングセンター等の割合が大きく、機会損失が起きている可能性があるため、若い住民が多い地域では若者向けに個店PRを行う等の余地があると考えられる。(令和3年3月江東区産業実態調査における現状と課題 P13)

3. 江東区の特徴的な取り組み

(1) 江東区ものづくり団地(江東ブランド)の認定

優れた技術でものづくりを行い、それを守りながら継承し、発展を続けている企業を「江東ブランド」として61企業を認定している。(令和8年2月1日時点)

認定企業への支援としては、以下に示す通りである。

<https://kotobrand.jp/>

- 展示会や見本市など製品や技術をPRできる場の提供
- 認定企業紹介パンフレットの発行・配布
- 認定企業情報を発信するための専用ウェブサイトへの掲載
- 認定企業を軸とした交流会の開催
- 江東ブランド認定ロゴマークの付与



(2) 江東区民まつり中央まつり

<https://www.city.koto.lg.jp/101021/kurashi/komyunitei/kumin/chuo/55.html>

毎年 10 月に木場公園にて開催され、令和 7 年で 43 回目を迎えた。本まつりでは、約 500 人のマーチングバンドによる「オープニングセレモニー」や区内商店や中小企業による出店、江東区とゆかりのある全国約 30 市町村が参加し、ご当地グルメや各地の特産品を販売する「はるばるバザール」の開催などが行われている。



4. 江東区の施策

(1) 江東区の基本計画

ア. 江東区基本構想（平成 21 年 3 月策定）

<https://www.city.koto.lg.jp/010162/kuse/shisaku/koso/5472.html>

概ね今後 20 年を展望した江東区の姿を「みんなでつくる伝統、未来 水彩都市・江東」として将来像に定めたほか、その実現を図るための施策の大綱は下記 5 つの大項目で示されている。

- 水と緑豊かな地球環境にやさしいまち
- 未来を担うこどもを育むまち
- 区民の力で築く元気に輝くまち
- とともに支えあい、健康に生き生きと暮らせるまち
- 住みよさを実感できる世界に誇れるまち

イ. 新しい江東区長期計画（令和 2 年度～11 年度）

<https://www.city.koto.lg.jp/010162/kuse/shisaku/kekaku/kekakur0211/choukikeikaku0211.html>

本長期計画では「地下鉄 8 号線の延伸」を重要課題とし、重点的な取り組みとして、下記 7 つの重点プロジェクトを掲げ、施策を横断的に連携させながら着実に取り組んでいる。

- 水彩・環境都市づくり
- 未来を創るこどもを育むまちづくり
- 地域の活力を生み出すまちづくり
- 高齢者など誰もが支えあう社会づくり
- 防災都市江東戦略
- オリンピック・パラリンピックレガシーの継承
- 臨海部のまちづくり



(2) 江東区の産業支援

<https://www.city.koto.lg.jp/sangyoshigoto/chusho/index.html>

ア. 相談対応

- 経営相談
- 財務・税務相談
- 労務相談
- 事業承継相談
- 産学公連携相談窓口（東京商工会議所）
- 技術相談窓口（東京都立産業技術研究センター）
- 専門家派遣相談



イ. 各種補助金

- 事業承継設備補助金
- 江東区エネルギー価格高騰対策補助金
- ICT等導入支援事業
- 小規模な産学連携共同研究補助金
- 知的財産権取得費補助
- 広告掲載費補助
- 中小企業団体活動助成
- 環境認証等取得費補助
- 展示会等出展費補助
- 研究開発補助金
- ホームページ作成費補助
- 都立産業技術研究センター利用補助金
- 創業支援事務所等賃料補助金

ウ. 創業支援

- 創業相談（相談員による支援）
- 江東区創業支援等事業・特定創業支援等事業（個別講義・セミナーによる支援）
- 日本政策金融公庫による創業者向け融資相談
- 江東区創業塾交流会

エ. 後継者・人材育成

- 中小企業の事業承継支援
- インターンシップ事業

オ. 産業情報の提供

- ビジネスサポートサービス
- 中小企業景況調査
- 中小企業支援施策ガイド

カ. 講座・セミナー・イベント

- 補助金・助成金等事業説明会
- 創業支援セミナー
- ランチタイムウェビナー
- 産業展

キ. その他中小企業支援事業

- 中小企業主および従業員の福利厚生支援
- 東京商工会議所江東支部と包括連携協定を締結
- 小規模事業者持続化補助金（日本商工会議所の支援策）
- 中小企業等経営強化法に基づく先端設備等導入計画の認定について
- 消費税の円滑かつ適正な転嫁
- 中小企業団体登録
- 産業会館・商工情報センター利用に伴う中小企業者登録
- 公衆浴場対策事業

5. 城東支部とのつながり

<https://joto-smeca.com/committee/committee-cat/cate02/>

城東支部としての、江東区との主な取り組みとしては、以下を目的に「江東区中小企業診断士会」が活動している。

- 江東区内の行政、金融機関、商工団体、商工事業者に対する相談対応の提供
- 会員による経営支援サービス
- 江東区民まつり中央まつりへの出展などイベント参加



江東区に聞く

江東区 地域振興部 経済課長 小越 誠



■創業支援に関する取組

創業支援に関しては、創業するための経営・財務・人材育成・販路拡大などさまざまな知識をセミナー形式で学べる創業塾の開催回数をこれまでの3回から令和7年度は6回、さらに令和8年度は通年で計8回へと大幅に拡充します。背景には副業や兼業としての創業ニーズの高まりがあります。融資を伴うような大規模な創業支援だけでなく、小規模な創業を希望する方々へも年間を通じて寄り添う体制を整えています。今後も地域に根ざした創業を後押しするため、多くの相談・支援機会を確保し、事業者の創業を支援していきます。

■物価高・エネルギー価格高騰対策

物価およびエネルギー価格の高騰対策としては、「江東区エネルギー価格高騰対策補助金」と「プレミアム付き区内共通商品券」を軸に令和8年度も継続的に対策を行っていく予定です。「江東区エネルギー価格高騰対策補助金」については、ガソリン価格の抑制に一定の目処が立ったことから、燃料費を除き水道光熱費を対象とする予定です。「プレミアム付き区内共通商品券」についても、毎年、前年度の申し込み状況等を精査し、より多くの区民に行き渡るよう公平性を高めた制度設計を行っています。また、補助金などの振興施策を多くの事業者へ周知できるように、メルマガを活用したプッシュ型の情報発信に注力し、必要な支援が確実に事業者が届くよう努めています。

■商店街支援に関する取組

区内に49ある商店街については、地域コミュニティとしての価値を重視し、エネルギー価格高騰への対策として商店街装飾灯補助事業に対する補助率を令和8年度に従来の4分の3から5分の4に引き上げ、補助基準額も廃止することで負担軽減を強化しました。商店街は担い手不足や会員減少といった厳しい現状ではありますが、商店街を単なる店舗の集まりではなく、地域の「顔」として残していくべき存在と捉えています。東京都の補助金も活用しながら、引き続き地域に密着した支援を継続していきます。

■DX 支援に関する取組

令和 8 年度に、中小企業向けに DX を支援する都内初の施設として「(仮称) DX 推進支援センター」を亀戸に開設予定です。これは「どのように DX を進めればよいかわからない」という事業者の課題に対し、窓口やオンラインによる相談に加え、出張相談や、実機を用いた体験会、研修・セミナーを通じたリスキリングによるデジタル人材の育成など、伴走型でサポートする、いわば DX 支援の駆け込み寺を目指したものです。さらに、業務効率化・合理化のために IT ツールなどの導入を支援する「ICT 等導入支援事業」や、DX の推進及び生産性の向上を支援する「DX・生産性向上推進資金(融資限度額 4,000 万円)」など、補助金や融資等と連動を図り、事業者の前向きな変革を強力に後押しする体制を構築していきます。

■江東ブランドに関する取組

地域産業の活性化に向けた「江東ブランド」事業では、現在の認定数 61 社から毎年 3～5 社程度の新規認定を目指し、展示会出展支援のほか、さまざまなイベントに参加するなどブランド企業の認知度向上・販路拡大をより広範に支援していく方針です。また、ブランド企業以外の企業も参加できる交流会や勉強会を開催し、ブランド企業を中心として地域の産業全体が盛り上がるよう取り組んでいます。

■中小企業診断士に期待すること

中小企業診断士の皆様には、資金繰り支援のみならず、経営の抜本的な再建やデジタル化への対応、事業再構築といった分野での活躍を期待しています。経営相談の拡充において、専門家の視点から事業者に寄り添い、共に歩む「伴走型支援」を実践していただくことで、厳しい環境にいる事業者が一人で悩まず、地域の産業が持続的に活性化することを目指して、より一層の協力をお願いしたいと考えています。

(令和 8 年 2 月取材)

第5章 墨田区

1. 墨田区の概要

(1) 墨田区の歴史

墨田区は近代産業の発祥の地であり、区内産業に従事する区民の割合が多く、区内産業と区民生活が密接に関わる「産業のまち」であった。昭和22年（1947年）3月15日に北部の向島区と南部の本所区が一つとなって墨田区が誕生した。墨田の名は、隅田川堤の通称「墨堤」の墨と、隅田川の田から名付けられた。

世帯数	172,036	
人口	男性	142,053
	女性	146,805
	総数	288,858
令和8年2月1日現在		

(2) 墨田区の地理

墨田区は東京都の東部、江東デルタ地帯の一部で、隅田川、旧綾瀬川、荒川、旧中川などを区界とする水辺と緑に囲まれた町である。区の形は南北にやや長く、東西約5km、南北約6kmで、面積は13.77km²あり、23区中17番目の広さとなっている。

出典：墨田区資料より、筆者加筆



(3) 墨田区の名所・見どころ

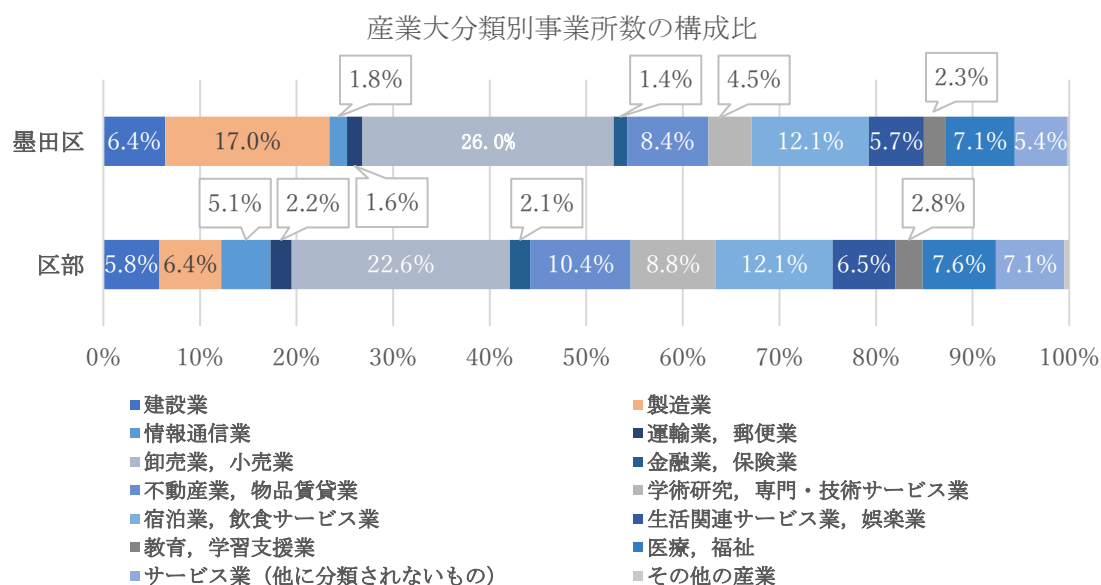
歴史や自然を含めて東京を象徴する観光資源に恵まれており、ものづくりのまちにちなんだイベントも開催されている。また、隣接する浅草から東京スカイツリー方面への移動による外国人観光客の訪問も多い。

主な観光名所	主な年中行事
隅田川	隅田川花火大会（7月）
東京スカイツリー 東京ソラマチ	こいのぼりフェスティバル（5月） 特別ライティングやイベント開催
すみだ北斎美術館	葛飾北斎に関する各種企画展示
江戸東京博物館	令和8年3月末、リニューアルオープン 展示再開に加え、図書室の機能を充実
牛嶋神社	牛嶋神社祭礼（9月）
錦糸公園	すみだまつり・こどもまつり（10月）
国技館	大相撲興行
区内の町工場	スミファ（令和7年は11月に開催）

2. 墨田区の産業の特徴と状況

(1) 墨田区の特徴と状況

墨田区の産業は、製造業の占める割合が高く、東京 23 区の中でも屈指の「ものづくりのまち」といえる。さまざまな業種の中小企業が集積し、日常生活関連用品や技術の供給地となっている。さらに近年は、平成 24 年（2012 年）の東京スカイツリー開業など、大規模開発や交通網の発展により状況が大きく変化している。しかしながら、後継者問題などから中小企業を取り巻く状況は厳しく、工場や小売業商店数が減少傾向にある。



注）「その他の産業」とは、「農林漁業（個人経営を除く）」、「鉱業、採石業、砂利採取業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「複合サービス業」の合計

出典：令和 3 年度経済センサス活動調査より、筆者作成

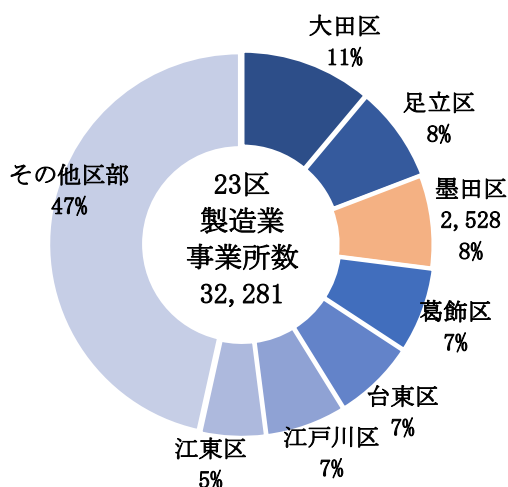
(2) 墨田区の産業の課題

ア. 墨田区の工業の特徴

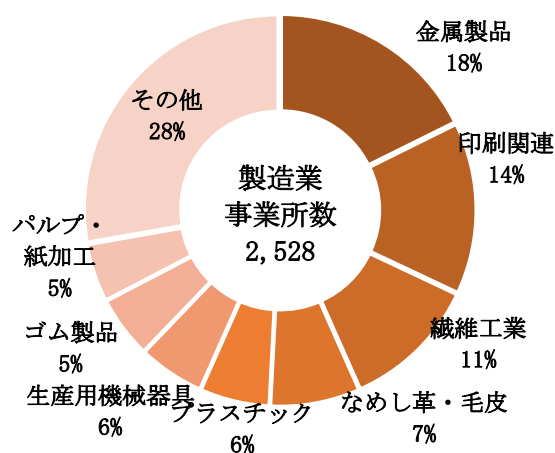
墨田区の工業は、日用消費財を供給する一大生産拠点として、ニット、皮革等の雑貨を中心に、関連の機械金属工業（日用消費財の金属部分を担うプレス、メッキ等）が集まって、全国有数の都市型工業集積を形成した。

製造業の中国や東南アジア等海外へのシフト、工場周辺でのマンション建設の増加などによる操業環境の悪化、また後継者難の問題もあり、製造業事業所数は減少傾向にあるものの、23 区では 3 位の事業所数となっている。

23 区の製造業事業所数

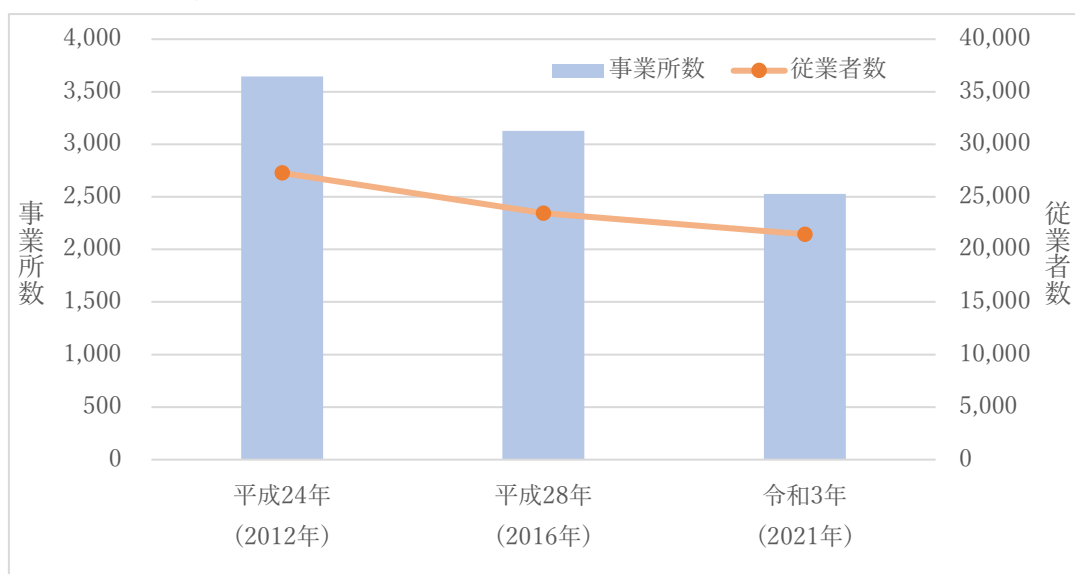


墨田区の製造業事業所数の業種別構成比



出典：令和3年度経済センサス活動調査より、筆者作成

墨田区 製造業事業所数・従業員数の推移 平成24（2012）-令和3（2021）年

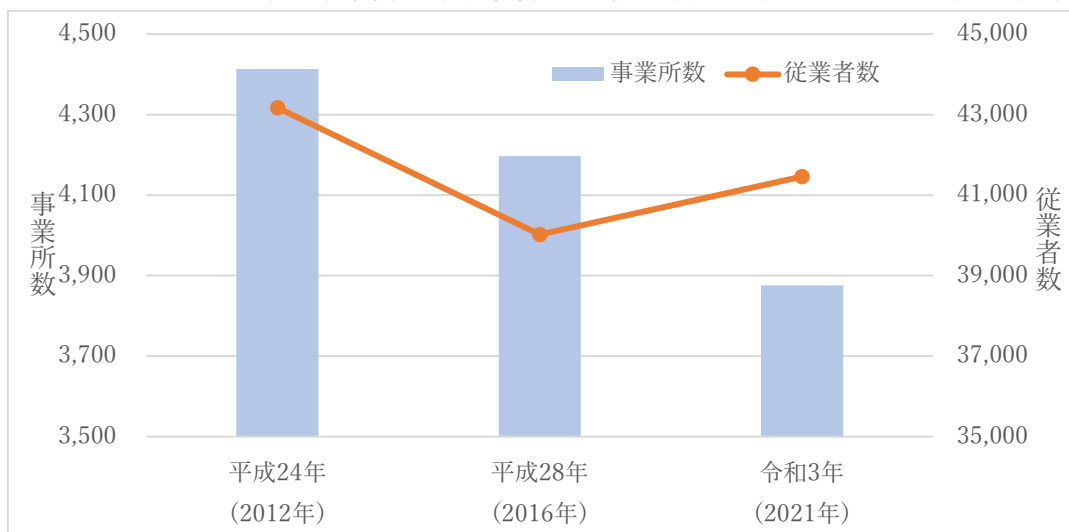


出典：経済センサス活動調査より、筆者作成

イ. 墨田区の商業の状況

墨田区は、近年の交通環境の発展や東京スカイツリー開業等による大型店の進出が加速しており、小売業商店は厳しい競争にさらされている。このような環境下で、商店街や個店は後継者難、顧客減少、空き店舗増加や施設の老朽化など数多くの課題を抱えており、小売業商店数は減少してきた。一方で、1事業所当たりの従業員数は増加しており、比較的小規模の事業者が廃業しているとともに、比較的大規模の事業者が残っている、または新規参入しているといった状況が伺える。

墨田区 小売・卸売業事業所数・従業員数の推移 平成 24 (2012)–令和 3 (2021) 年



出典：経済センサス活動調査より、筆者作成

3. 墨田区の特徴的な取り組み

(1) すみだモダン (すみだ地域ブランド戦略) の推進

東京スカイツリーの誘致を契機に、「ものづくりのまちすみだ」を区内外にPRするために平成 21 年度にすみだ地域ブランド戦略事業を開始。令和 3 年 (2021 年) には対象を「商品」だけでなく事業者の「活動」にも広げ、またロゴマークもリニューアルした。すみだらしい付加価値の高い商品等を「すみだモダン」と認証する「すみだモダンブランド認証事業」や、区内製造事業者とクリエイターとのコラボレーションによる市場価値の高い新商品開発を行う「すみだモダン フラッグシップ商品開発」を推進している。令和 4 年 (2022 年) にはすみだモダンの理念に共感した個人・団体・企業が参加できる「すみだモダンコミュニティ」をスタートした。

平成 28 年 (2016 年) には「産業観光まちづくり大賞」で経済産業大臣賞、平成 29 年 (2017 年) には「ふるさとづくり大賞」で総務大臣賞を受賞するなど、高い評価を受けている。



こころ、ゆさぶる。
すみだ
モダン

こころ、ゆさぶる。

すみだモダン

いまだけではない、100年先のこころよさを。
自分だけではない、より多くの人のよろこびを。
まあたらしい、鮮やかな感動を求めて。
こころ、ゆさぶる。
つくる想いが、こころを動かしていく。

出典：墨田区 HP より

https://www.city.sumida.lg.jp/sangyo_jigyosya/sangyo/pr_brand_hyousyo/sumida-brand/brand.html



(2) スミファ～すみだファクトリーめぐり

スミファは墨田区の町工場を巡って、職人と話をしたり、技術に触れながら、ものが作られていく“現場”を肌で感じることでできる参加型イベントである。令和7年（2025年）11月は、区内の町工場52社が参加し、前年から16社増加となった。

<https://sumifa.jp/>



(3) 墨田区産業共創施設 SIC (SUMIDA INNOVATION CORE)

スタートアップと墨田区内の学生起業家を支援し、区内のものづくり企業との交流・共創を生み出す拠点「墨田区産業共創施設 SUMIDA INNOVATION CORE (スミダ イノベーション コア)」が、令和5年（2023年）10月に開設された。「ものづくりのまち」として蓄えた技術・人材と地域ネットワークを活かして、スタートアップを支え、墨田区のものづくり企業との共創を育み、プレシード・シード期を中心に、ミドル期まで幅広く支援していくことを目指している。



出典：墨田区 HP より

<https://sic-sumida.net/>



4. 墨田区の施策

(1) 墨田区の基本計画

- ・墨田区基本計画（令和4年改定）

平成17年（2005年）策定の「墨田区基本構想」を実現するための「墨田区基本計画」を、環境変化に合わせて改定した。当計画では、これまでの施策の達成状況や社会経済情勢の変化およびSDGs（持続可能な開発目標）の理念などを踏まえ、持続可能なまちとして墨田区の発展を見据えている。

https://www.city.sumida.lg.jp/kuseijoho/sumida_kihon/kihonkeikaku/kihonkeikaku_r4/r4-keikaku.html



(2) 墨田区の産業支援

ア. 産業と観光の将来構想～あえる！～（令和4年）

これまでの産業振興および東京スカイツリー開業を契機とした観光振興を一体化した取り組みである。産業と観光の切り口でさまざまな社会課題を解決し、持続可能なまちを実現するための構想を新たに策定した。長期的なビジョンとして「本気の夢中が出会い、世界からも注目されるまち。」を掲げている。

https://www.city.sumida.lg.jp/kuseijoho/sumida_kihon/ku_kakusyukeikaku/sangyou_AERU.html



イ. 3M（スリーエム）運動

墨田区の産業 PR とイメージアップ、地域活性化を図る事業である。「小さな博物館」(Museum)、「マイスター」(Meister)、製販一体の「工房ショップ」(Manufacturing shop)、の3つの頭文字をとって「3M（スリーエム）運動」と呼ぶ。産業分野を伝統工芸、ガラス製品、革製品、食用品・日用品・木工品などに分類し、それぞれの認定事業者を紹介することで、区の優れた産業をアピールしている。

https://www.city.sumida.lg.jp/sangyo_jigyosya/sangyo/pr_brand_hyousyo/sumida3m/index.html



ウ. フロンティアすみだ塾

中小企業の後継者または若手経営者を対象に、次代を担う人材の育成を目指す私塾形式のビジネススクールを行っている。経営の知識や心構えの教授だけでなく、本音討論や区内企業の現場見学も通じ、経営課題を自ら考え克服する力を鍛錬・養成している。

運営は、区、関係機関、区内産業人で構成する「すみだ次世代経営研究協議会」が実施する。

<https://frontier-sumida.com/>



エ. すみだビジネスサポートセンター（すみサポ）

墨田区役所1階に無料の経営相談窓口を設置している。創業相談や販路拡大、ものづくりの困りごとまで総合的なアドバイスを受けられる。また測定・試験機器や3Dプリンタも設置されていて、有償利用可能となっている。

https://www.city.sumida.lg.jp/sangyo_jigyosya/sangyo/soudan/sbsc/2017sbsc-open.html



オ. すみだ就職・仕事 Web

墨田区内の中小企業に対する人材の採用・定着に関する支援、墨田区内での就業を希望する求職者に対する就職支援に関する情報を発信するサイトである。企業向けのセミナー開催、求職者向けのカウンセリング、SUMIDA JOBFESTA、合同企業説明会等を開催している。

<https://sumida-jobsapo.com>



カ. 各種補助金、助成金

ものづくりや販路拡大、人材確保、商店街支援を中心に、各種補助金等が用意されている。

(下記は令和7年度の一例)。

- 生産性向上等支援補助金
- デジタル技術活用支援補助金
- ものづくり企業地域共生推進助成金
- 区内生産品等販路拡張事業補助金
- ものづくりプロモーション推進補助金
- 知的財産権取得補助金
- 人材確保・定着支援補助金
- 就業規則整備補助金
- 依頼試験等利用補助金
- 墨田区商店街連合会の事業
- 商店街チャレンジ戦略支援事業
- 商店魅力アップ支援事業

https://www.city.sumida.lg.jp/sangyo_jigyosya/sangyo/hojokin_joseikin/index.html



キ. 融資制度（商工業融資）

下記のように、区内中小企業の事業経営上必要な資金の調達を容易にするための商工業融資が設けられている（下記は令和7年度の一例）。

- 事業承継支援資金
- M&A資金
- チャレンジ支援資金
- 経営安定資金
- 設備資金（二酸化炭素）

https://www.city.sumida.lg.jp/sangyo_jigyosya/sangyo/yuusi/index.html



5. 城東支部とのつながり

城東支部は、墨田区および区内の中小事業者の活動を支援するシンクタンクを目指して活動しており、区内の企業および中小企業支援機関との関係構築とともに、中小企業診断士の実務経験の場の提供を進めている。

墨田区役所および区内のNPO等の団体とも連携して、経営支援・地域支援・社会貢献等の活動に取り組んでいる。令和7年度の主な活動内容は以下である。

- 「墨田区SGDsセミナー」の開催（令和8年2月）
「すみだSDGsアワード2025」受賞企業2社による講演を実施した。受賞企業のSDGsの取り組み事例・知見を紹介するとともに、経営向上のヒントを探るべくパネルディスカッションを行なった。
- 「すみだ里山プロジェクト（通称・すみ里プロジェクト）」の支援
令和7年6月に開催されたすみだ環境フェアで、NPO法人寺島・玉ノ井まちづくり協議会が推進する、区内に都市型農園の展開を目指す「すみだ里山プロジェクト（通称・すみ里プロジェクト）」の広報活動支援を実施した。
- すみだファクトリーめぐり（スマファ）への参加（令和7年11月）
スマファの中で、「中小企業診断士と歩く！すみファ特別ガイドツアー」と「診断士おすすめスマファモデルコース」の2つの企画を実施した。
- ひがしんビジネスフェア（令和7年11月、両国国技館）
東京東信用金庫開催のビジネスマッチングイベントで、経営相談ブースを開設した。
- 商店街支援
錦糸町から東京スカイツリーの間タワービュー通り商店街にて「夕涼みランタンウォーク2025」の運営支援を実施した。（令和7年8月）

墨田区に聞く

墨田区 産業観光部 経営支援課長 砂山 暢



■物価高対策（生産性向上）について

墨田区では、物価高対策として事業者の生産性等を向上させることに注力しています。令和7年度の主要な補助事業には「生産性向上等支援補助金」「デジタル技術活用支援補助金」「区内生産品等販路拡張事業補助金」等があげられます。工作機器やLED照明の導入による生産性向上やコスト削減、デジタル化・AI活用等による作業・業務の効率化、販路拡大に向けた展示会出展等を支援しています。

区としては、補助金による費用補填にとどまらず、売上拡大や競争力強化等の本質的な事業継続支援を重視し、計画策定等に当たっては、経営全般の相談窓口である「すみだビジネスサポートセンター（すみサポ）」が、業務改善の目的や数値目標の具体化等の助言を行い、伴走型でサポートしています。

■人材確保・定着について

生産年齢人口の減少という社会構造の変化は、区内事業者にとっても、人材の確保・定着に大きな影響を与えていると認識しています。

人材の確保に向けては「すみだ人材確保プロモーション支援事業」を展開しています。具体的には、「すみだ就職・仕事Web」での会社紹介・取材記事の発信とともに、大学・専門学校とも連携した合同企業説明会等の開催を通じて、企業と求職者のマッチング機会の創出に取り組んでいます。

また、「墨田区人材確保・定着支援補助金」等の補助制度を設け、働きやすい職場環境づくりや就業規則の整備を支援しています。令和8年度に向けて、熱中症対策支援も職場環境整備のテーマとして検討しているところです。

事業者の人手不足問題については、経営ビジョン・戦略等の策定段階で、各企業の強みや魅力を認識し、適切に打ち出していくことで、求職者に対しても「働きたい／働きやすい職場」であることを認識してもらうことに繋がると考えます。今後は、すみサポでの経営相談を通じた助言等も重要になると認識しています。

■事業承継支援について

中小企業白書によると令和6年の後継者不在率は52.7%でした。従来からは減少しつつも、決して低くはない水準にあり、事業継承問題は道半ばであると考えられます。

墨田区でも後継者の不在により、事業を畳まざるを得ない方が一定数いるのが現状だと考えられるため、どのような支援を行っていくかが課題だと認識しています。

現在の事業承継に関連する区の主な取組みは以下になります。

①商工業融資

事業承継支援資金（資金使途：運転資金・設備投資、利子・保証料補助あり）のメニューを設け、資金支援を行っています。

②すみだビジネスサポートセンター

経営相談を通じて伴走型で支援を行っています。事業承継にどう取り組めばよいか、あるいは、事業を承継し今後の経営に不安があるといったお悩みも受け付けています。

③フロンティアすみだ塾

1年を通じて、講義・企業見学・合宿等を行う、後継者・若手経営者育成のビジネススクールです。「お互いに切磋琢磨できる仲間をつくり、全人格的な付き合いで志を高める」などの理念をかかげ、20年以上続く、地域に根差した存在となっています。

同期・先輩・後輩・他塾など、人と人のつながりを大切に、皆さんの卒業後の活躍にも大きく貢献していると考えています。また、地域で活躍する先輩経営者の皆さんが面倒見良く、懐深く、若手経営者と繋がっていることは、墨田区の大きな地域特性でもあります。

④HANDS（東京東信用金庫・東信用組合・中ノ郷信用組合・第一勸業信用組合・墨田区）

4つの地域金融機関と墨田区による、地域産業を守るための取組で、区内企業の「お困りごと」を共有し、金融機関の垣根を越えて、課題解決に努めています。ビジネスマッチングの相談に関して、各機関の顧客を紹介するような事例もあり、ゆくゆくはM&Aのマッチング支援等にもつなげていきたいと考えています。

今後の区の取組としては、事業承継支援に関する情報発信にも注力し、フォーラム・セミナーなどのイベントを通じた啓発を図り、相談支援につなげていきたい考えです。

■中小企業診断士への期待

様々な場での意見交換等を通じて、中小企業診断士の皆さんからは最新の社会情勢や地域・地元企業の状況、それらに対する専門的知見をいただいています。今後とも是非お力添えをいただけますと幸いです。

（令和8年1月取材）

おわりに

以下の執筆メンバーが各区の調査や行政担当者への取材を実施致しました。調査や取材により地域の特徴や現状、課題、対策について改めて知ることができました。この場を借りてご協力いただいた方に御礼を申し上げます。また、読者の皆様においても、本誌を通して城東地区5区を知っていただき、さらに興味をお持ちいただけたら幸いです。

編集後記・第8版執筆者

【足立区】 藤井 篤宜

下町の伝統と新たな挑戦が共存する足立区。今回の執筆を機に、診断士として足立区の活力ある未来を支えていきたいと思えます。



【江戸川区】 魚住 高志

江戸川区が施策に込めた意図や想いが、少しでも伝わればうれしく思います。江戸川区のことをますます好きになりました！



【葛飾区】 梶谷 義人

葛飾区の産業特性や知的資産を活かした『点ではなく多面的な』施策の中にある熱い思いが皆様に伝わると嬉しく思います。



【江東区】 小島 正嗣（第8版執筆リーダー）

江東区は下町情緒と湾岸の未来感が共存する活気ある魅力的な地域だと改めて認識しました。今後も診断士活動で貢献して参ります。



【墨田区】 安田 淳

墨田区の施策の取材から、区の産業振興に対する強い想いに触れることができました。今後も診断士として貢献できるよう頑張ります。



発行元：東京都中小企業診断士協会 城東支部 地域支援部

城東支部ホームページ：<https://joto-smeca.com/>

